



この冊子から排出されるCO<sub>2</sub> 348g (一冊あたり)を  
カーボン・オフセットしています。

環境・社会報告書の資材調達・輸送、刷版・印刷、製本、配送、廃棄を含むライフサイクルにおいて  
発生するCO<sub>2</sub>をオフセット・クレジット(J-VÉR)でカーボン・オフセットしています。

- ・プロジェクト：北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業
- ・オフセット総量：2t

→ 詳細はITOKIホームページ > 企業情報 > 環境・社会報告をご覧ください。



印刷過程で有害な廃液が  
出ない水なし印刷方式で  
印刷しています。



適切に管理された認証林  
に由来するFSC® 認証紙を  
使用しています。



環境負荷の高い石油系溶剤を  
低減し、非食用を含めた植物油  
インキで印刷しています。

A0510 / 1206 ©CGPTY5

# CONTENTS

編集方針  
 コーポレートメッセージ 新Ud&Eco style  
 トップメッセージ .....4

## 特集

1 森と人の共生 ..... 6  
 2 ビジネスの環境負荷マネジメント ..... 8  
 3 創造活動を支える ..... 11  
 レポート 東日本大震災とイトーキ ..... 13

## マネジメント

コーポレート・ガバナンス ..... 14  
 リスクマネジメント/コンプライアンス ..... 15

## 社会性報告

お客様とのコミュニケーション ..... 16  
 販売代理店とのパートナーシップ ..... 17  
 従業員とのコミュニケーション ..... 18  
 株主とのコミュニケーション ..... 20  
 社会とのコミュニケーション ..... 21

## 環境報告

環境方針と環境中期計画 ..... 22  
 環境目標と2011年度の実績 ..... 23  
 地球温暖化防止 ..... 24  
 資源の有効活用 ..... 26  
 有害物質の最小化 ..... 28  
 生物多様性の保全・維持 ..... 29  
 グループ企業の環境活動 ..... 30  
 事業活動と環境負荷/環境会計 ..... 32  
 環境パフォーマンス ..... 33

会社概要 ..... 34  
 第三者意見/意見を受けて ..... 35

### はじめに・編集方針

本報告書は、企業コンセプトである新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)を追求し、「人も生き生き、地球も生き生き」する社会を目指すイトーキの企業活動を、多くの方にわかりやすくお伝えするものです。

2012年版では、特集記事におきまして、イトーキが、事業を通じて進める社会、環境への貢献を紹介しています。森林の保全、オフィスの省エネルギー、オフィスワーカーの快適性・創造性の向上など、皆様の関心の高いテーマに関連する製品・ソリューションをピックアップしています。

2011年度の社会活動、環境活動のご報告では、特に2011年度に力を入れた取組みや、イトーキの事業内容から重要と考えられるテーマを抜粋して掲載しています。

今後も、ステークホルダーの皆様との対話を大切に、環境・社会活動とその情報公開に努めていきます。Webサイトにはアンケートもご用意していますので、是非ご意見・ご感想をお寄せください。

### 幅広いステークホルダーの方々に向けて Webサイトにより詳しい情報を公開します。

Webサイトに環境・社会活動にかかわるすべての情報を掲載し、冊子はダイジェスト版としています。冊子のページ見出しごとにWebアドレスを記載しましたので、是非あわせてご覧ください。

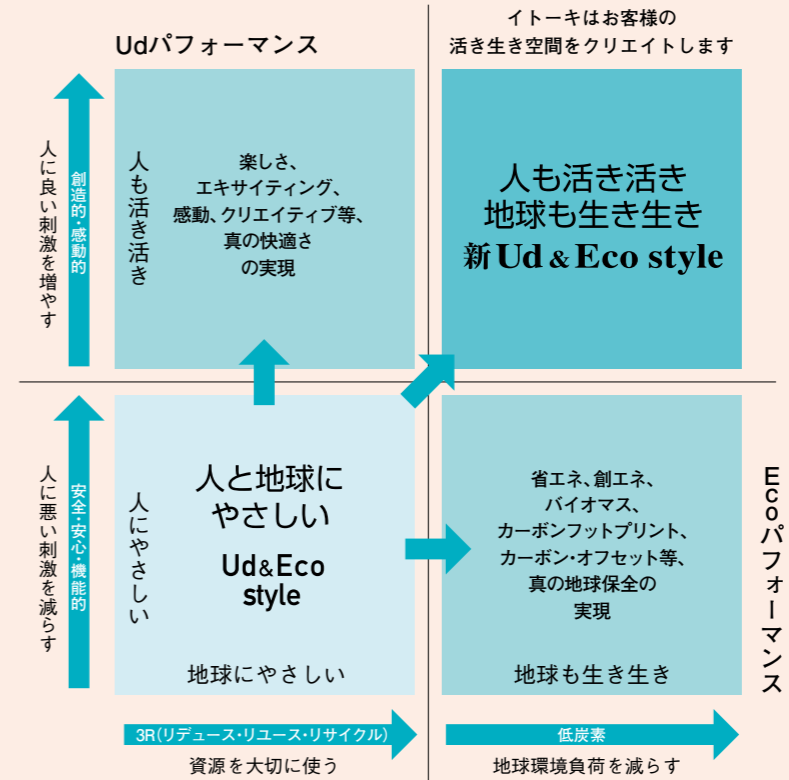
<p>■ 環境・社会報告書 2012 (冊子)</p> 	<p>■ 環境・社会報告 (Webサイト)</p> 	<p>■ 年次報告書 (Webサイト)</p> 
--	---	--

環境・社会活動において重要性の高い取組み、2011年度の実績を中心に紹介しています。経済性報告については、別途「年次報告書」を発行し、Webサイト「IR情報」に掲載しています。

- ホームページ <http://www.itoki.jp/>
- Ud&Eco style <http://www.itoki.jp/udeco/>
- 環境・社会報告 <http://www.itoki.jp/udeco/environment/>
- IR情報 <http://www.itoki.jp/company/ir/>
- EcoWorkstyle.com <http://www.ecoworkstyle.com/>

- 主な報告対象者  
お客様、代理店、株主・投資家、従業員、調達先、グループ会社、事業所近隣住民（敬称略）
- 報告対象組織  
株式会社イトーキ、連結子会社および一部子会社  
※連結子会社および一部子会社についてはP30をご覧ください。
- 報告対象期間  
2011年度（2011年1～12月）※活動については一部2012年度を含みます。
- 発行  
2012年6月（次回発行は2013年6月の予定です）
- 報告対象分野  
環境保全活動、社会活動
- 準拠あるいは参考にするガイドライン  
環境省「環境報告ガイドライン（2007）」  
環境省「環境報告書の記載事項等の手引き（2007）」  
環境省「環境会計ガイドライン（2005）」
- 連絡先  
環境管理室 Tel：03-3206-6201 Fax：03-3206-6290  
Mail：eco@itoki.jp

# 進化をつづけるコーポレートメッセージ 新Ud&Eco style



### ■ 人が主役の環境づくりを目指して

イトーキは、「人が主役の環境づくり」を実践する中で、家具や空間設計に人間工学を取り入れ、安全性、快適性を追求。早くからユニバーサルデザインに取組んできました。そして1990年代の後半に入り、社会全体でエコロジーへの意識が高まる中で、1999年にコーポレートメッセージとして「Ud&Eco style (ユーデコスタイル)」を宣言。Ud (ユニバーサルデザイン) とEco (エコデザイン) の融合で持続可能な共創社会の実現に貢献することを打ち出しました。

2005年には、「Ud&Eco style」の思想をベースにしたプロダクトガイドラインを策定。以来、Ud&Ecoプロダクトが次々と生まれ、2007年スピーナチェア、2008年LANシートがグッドデザイン賞金賞（経済産業大臣賞）を受賞するなど、高い評価をいただくことができました。

### ■ よりアクティブでポジティブな提案へ

2010年、「Ud&Eco style」の宣言から10年が経過し、ユニバーサルデザイン、エコデザインの思想は、一般的なものになりました。そうした中でイトーキは、

「Ud&Eco style」をより進化させた「新Ud&Eco style」を宣言しました。「人と地球にやさしい」から、「人も生き生き、地球も生き生き」へ。「新Ud&Eco style」は、Ud&Eco styleの問題解決型のアプローチに、よりアクティブでポジティブな考え方をプラスしたものになっています。Udは、人に悪い刺激を減らす活動に、「楽しさ、感動といった真の快適性を追求する活動」をプラス。Ecoは、3Rに代表される資源を大切に活動に、「CO<sub>2</sub>削減に貢献する省エネルギー、創エネルギーなどの活動」をプラスしています。

### ■ UdとEcoが高次元で結実した製品へ

イトーキは現在、UdとEcoの価値が高次元で結実したUd&Ecoプロダクトを市場に発信していこうとしています。そのために、UdとEcoの観点から、開発するプロダクトレベルを独自に定義し、製品企画の基盤としています。しかしイトーキの目的は、「新Ud&Eco style」を単に自社製品で具現化することではありません。空間としてトータルに実現し、「人と地球が生き生きとする社会を目指そうという考え方」として社会全体に広めていきたいと考えているのです。

# 「皆様と感動を分かち合える企業」を目指して



株式会社イトーキ 代表取締役社長 **松井 正**

## はじめに

日頃は当社の活動に多大なるご理解とご支援をいただきまして、深くお礼申し上げます。

さて、この一年を振り返りますと、東日本大震災や台風による甚大な被害などから自然災害の恐ろしさを改めて認識し、当社がお客様、販売代理店様、調達先様に大きく支えられていることもこれまで以上に強く感じることができました。心から感謝するとともに、これからも復興・復旧に尽力した人々が快適に過ごせる環境づくりにまい進して参ります。

震災後の日本の経済環境は、ここへきて供給制約が解消されて需要回復傾向にあるものの、欧州債務問題の深刻化、海外経済の減速、円高など、外部環境の影響を考えると、まだまだ景気の先行きは厳しと見えています。

## 創業者の精神を引き継ぎ、新しい価値を提供

イトーキは、1890年（明治23年）に、大阪で伊藤喜商店として創業して以来、日本のオフィスの歴史とともに歩み、発展してまいりました。創業者・伊藤喜十郎は「便利な発明品を世の中に広げ、人々に喜ばれる仕事をしたい」という志を持って、他に先んじてホチキスや魔法瓶などの輸入・販売を行いました。さらにこの発明特許品の普及にかける情熱は、単に仕入れて販売するだけに留まらず、自ら製造して販売する方向へと事業を拡大してきました。そして、1950年（昭和25年）には伊藤喜工作所を設立し、戦後まだめづらしかったスチールデスク、チェアの製造をスタートさせ、その後長きに渡り、オフィス家具業界を牽引してきました。しかし、この間は決して順風満帆ではなく、いろいろな苦境を乗り越えて122年もの歴史を作ってきたのです。

私は常々申しておりますが、大きな変化に遭遇したときこそ、物事の本質がわかる時であり、お客様に貢献できる機会でもありと考えております。今後も、創業者の精神を引き継ぎ、社会から求められる空間づくり、環境づくりを幅広く提案していくことはもちろん、お客様がまだ気づいておられない新しい価値を、時代に先駆けて提供していくことが我々の使命であると感じております。

## 人も活き活き、地球も生き生き

「人が主役の環境づくり」をテーマにオフィス環境を提案してきたイトーキは、常に人や地球環境へのやさしさを大切にした企業経営を行ってきました。1999年にはユニバーサルデザインとエコデザインを融合したUd&Eco style 「人と地球に優しい」を企業コンセプトに掲げ、社会的責任や地球環境に重きを置くことをいち早く宣言しました。そして2009年には従来のユーデコスタイルをさらに進歩させ、新Ud&Eco style 「人も活き活き、地球も生き生き」を掲げ、サステナブルな地球環境に貢献するため、新たな分野へも挑戦してきました。

そんななか、今年には業界初のカーボン・オフセット付きスピーナチェアが、第1回カーボン・オフセット大賞の優秀賞を受賞するほか、自社オフィス内で使用している照明システムが“省エネ・照明デザインアワード2011”で優秀事例賞に輝くなど、環境省から2つの賞をいただくことができ、取組みの成果が見え始めています。また、一方では地域材を地産地消することによって森林資源の保全を行うエコニファの開発もさかんに行っており、林野庁が実施している“平成23年度木づかい運動”において、農林水産大臣より感謝状をいただきました。

私自身、長い地球の歴史のなかの一瞬を生かされ、またイトーキ122年の歴史のほんの1コマを預かって仕事に取り組んでおります。大切なことは、いずれも誠実さを持って、やるべきことをやり、次の世代にバトンを手渡すことだと信じております。

## 新たなる挑戦

日本企業を取り巻く環境は依然として厳しく、景

気の先行きはまだまだ不透明な状況にあります。このような経済環境のもと、当社は創業125年という節目を迎える2015年を最終年度とした中期経営計画「ローリングプラン2015」を策定しました。

具体的には次の5つの戦略です。①「開発・生産体制の改革」による原価低減および品質の向上、②「営業体制の改革」によるお客様の課題解決型提案の促進、③「オフィス関連事業の更なる拡大」による経営基盤の安定、④「設備機器関連事業の収益拡大」による新規事業の拡大、⑤「現地向け新ブランド投入で海外戦略を本格展開」による2015年を目指しての海外市場の拡大です。それぞれの施策を着実に実行し、地球環境保全に努めるとともに、お客様に喜んでいただけるイトーキ商品を提供できるグループ全体のサプライチェーンを確立してまいります。

ビジネスも人も逆境の時こそ真価が問われます。時代が移り変わり、社会や経済環境が変化していくなか、仕事の手段やスピードが変わってもイトーキの原点は創業時から培ってきた「顧客第一主義」です。お客様のためになり、社会のためになること、常に新しい価値を提供できる企業になることが使命であると考えております。「ローリングプラン2015」には、私のこうした強い思いを込めております。

今後とも「皆様と感動を分かち合える企業」を目指して努力してまいりますので、どうかより一層のご支援をお願い申し上げます。

2012年6月30日

### ITOKI 企業理念

- 1. 創業者の旺盛な開拓精神を持ち続けよう
- 1. あらゆることに創意と工夫をこらし、新しい価値を生み出そう
- 1. 正しい商道に徹し、勤勉と努力を惜しむまい
- 1. 皆で力を合わせ苦難を切り拓いて、繁栄をもたらそう
- 1. 常に業界NO.1を目指そう
- 1. 自己を実現し、悔いなき人生を送ろう

## 地域材の活用を通じて 森林保全と街の活性化に貢献

日本は国土の67%が森林に覆われた世界有数の森林国です。そして私たちイトーキは、森林を構成する木と密接に関わる事業を展開しています。地域材を使ったものづくりを通じて、森林を守り、人や街の豊かな未来への貢献を目指すイトーキの取組みを紹介します。

### ④循環型社会を目指して

イトーキは、自らの事業における、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組む一方、お客様に提供する商品・サービスを通じて、地球環境保全への貢献を目指しています。オフィス、公共施設など、多彩な空間を通じて、多くの人々に関わるイトーキの事業は、CO<sub>2</sub>の削減を、「炭素固定化」「省エネルギー」など、さまざまな形で提案することが可能です。イトーキが追求するテーマのひとつに、木材による上質な循環型社会の実現があります。

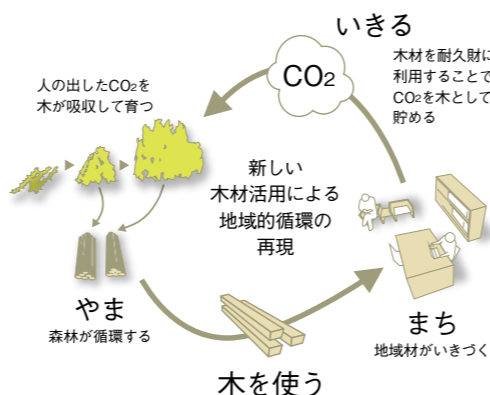
### ⑤Econifaができること

木材を生み出す日本の森林は今、元気をなくしています。木材の輸入自由化により、地域材価格が下落し、林業の採算悪化や後継者の不足、就業者の高齢化など、深刻な問題を引き起こしているのです。その結果、日本各地で森林の荒廃が進んでいます。このままでは、かけがえのない森林の機能低下が懸念されます。日本は、地域材を積極的に活用することで、「植林～育林～収穫」という森林のサイクルを取り戻していく必要があります。

イトーキでは2010年から、「炭素固定」をキーにやま（森林）とまちを木材利用で結び新たな価値のサイクルをつくる地域材の活用ソリューションEconifa（エコニファ）を展開しています。

CO<sub>2</sub>は、光合成によって木に蓄積されます。「炭素の缶詰」ともよばれ、1㎡あたりおよそ250kgのCO<sub>2</sub>を固定するとされる木材を「まち」が耐久消費財（家具）として利用することで、地球温暖化防止につながります。また、木を活用することで、「やま」の林業が活性化され、さらに人々の暮らしに木のやすらぎを提供することで「まち」の暮らしをいきいきとさせることができます。Econifaにより、「やま」から「まち」へさまざまないきいきの循環が生み出されるのです。

### ▼Econifaが実現するサイクル



### Econifa納入事例

物件名:特別養護老人ホーム樹の郷  
滋賀県甲賀市



滋賀県産スギ・ヒノキを使用した家具を納入

### ⑥針葉樹を洗練された家具へ

日本の森林の約7割を占める針葉樹が、Econifaで活用される樹種です。これらは「そり」「われ」などが発生しやすく、家具には不向きとされてきました。イトーキでは、針葉樹を家具などの耐久財への応用を可能にした製材テクノロジーにより、スギ、ヒノキ、カラマツなどの加工自由度の向上に成功しました。

またEconifaでは、品質に加えて、デザイン性にも重点を置いています。国内外のデザイナーによるデザインテンプレートをベースに、お客様が指定する地域の木材を、ベンチ、チェア、テーブル、パーティションなど、洗練された家具として活用いただけるようになっています。

### ▼Econifaのデザインテンプレート



CHベンチ



Twimo (ツイモ)

### ⑦日本全国の地域材利用を支援

2010年10月から、国や地方自治体の公共建築物ならびに民間の同等の建築物について、地域材の積極的な利用推進を求める「公共建築物等木材利用促進法」が施行されました。この法律に呼応するかたちで、各地で地域材を使った空間づくりのニーズが高まっています。

イトーキでは現在、Econifaを通じて日本全国の自治体の皆様とパートナーシップを結んで、各地の地域材の活用を支援しています。これまでに構築してきた、木材の商品化に必要な伐採-1次加工-2次加工-組立のネットワークをいかして、木材の「地産地消」を促進します。また、地方の木材産地と都市部の消費を結ぶ役割も積極的に果たしています。

今後もイトーキは、家具、書架、床、内装などの幅広い用途での地域材の活用を通して、森林と地域の暮らしの活性化に貢献し、緑豊かな日本を将来の世代に引き継いでいきます。

## Voice | 協業先の声



### 森林と人が輝く町 北海道下川町

「森林と人が輝く町」を掲げて、森林と地球環境、人の先進的な取り組みが進められる北海道下川町。森林を木材の生産の場として捉えるのみならず、「木質バイオマス燃料」による「再生可能エネルギーの普及促進」、環境共生型モデル住宅（エコハウス美桑）を拠点とした次世代の「環境配慮型ライフスタイルの発信」など、日本の山村の未来を考える上でのモデルとなるさまざまな活動が行われています。イトーキでは、Econifaの仕組みを使って下川町産材を使った家具づくりとその全国への販売を支援しています。

### 循環型森林経営を進める パートナーとして

下川町では、約60年前から国有林を取得し継続して植林を行い、循環型森林経営に取り組んできました。2011年には、政府が新成長戦略に基づき進めている「環境未来都市」構想および総合特区制度において、「人が輝く森林未来都市しもかわ」と「森林総合産業特区」を提案し認定され、将来へ向けた森林の活用を一層加速しようとしています。誰もが安心して暮らせる「森林未来都市」の実現を目指すなかで、イトーキには、下川町の地域材の「さらなる多面的利用の推進役」また「消費地との繋ぎ役」といった面で大いに期待しています。

北海道下川町  
環境未来都市推進本部長  
春日 隆司様



## 低炭素化社会のための ワーキングエクスペリエンスへ

地球環境に対する責任を果たすために、  
企業には一層の省エネ施策、  
エコワークスタイルへの移行が求められます。  
イトーキは、オフィスづくりのプロフェッショナルとして、  
企業活動に伴う環境負荷低減を実現する  
さまざまなソリューションを提供しています。

### ⇒ 環境ソリューションブランドを展開

2011年3月の東日本大震災に端を発したエネルギー、資源の枯渇により、災害や経済危機に順応するワークスタイルが求められています。イトーキは、地球と人をいきいきとさせるオフィスづくりを通じて蓄積してきたノウハウをベースに、2011年11月から環境ソリューションブランドEcoWorkstyle.comを展開しています。

企業活動では、必要不可欠な資源であるエネルギーと資材がインプットされ、その結果として「温室効果ガス」「廃棄物」「有害化学物質」が環境負荷として排出されます。EcoWorkstyle.comは、「効率的な活用」「環境負荷の低いものへの代替」という2つのアプローチにより環境負荷を削減。さらに減らせないものを「カーボン・オフセットする」というモデルをコンセプトとしています。

### ⇒ 総合的な環境負荷のコントロール

イトーキのエコソリューションは、カーボンマネジメントを軸とした総合的な環境負荷のコントロールや、持続活動な経済活動を実現するさまざまなサービスとして提供されています。

#### 【カーボンマネジメント】

排出量削減の手法として期待されるカーボン・オフセットの導入をワンストップで支援しています。

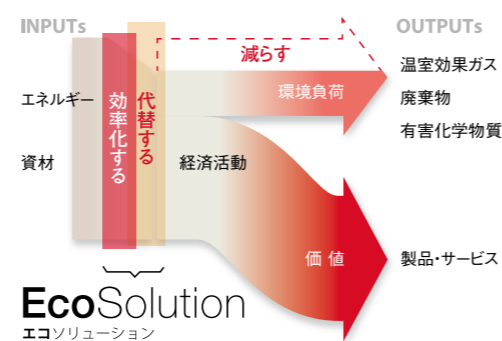
#### 【エネルギーマネジメント】

オフィスの省エネをタスク・アンビエント方式による照明システムや高効率照明器具で提案しています。

#### 【マテリアルマネジメント】

天然、環境配慮素材をフル採用したオーガニックインテリア、もみがらを有効利用するハスクボード、地域材の活用で建築物の木質化を進めるEconifa(エコニファ)などを展開しています。

EcoWorkstyle.com  
http://www.ecoworkstyle.com/



## Voice | 担当者の声

### お客様との共通価値を

私たちの事業自体が、「温室効果ガスの削減に取り組んでいただく」「より低VOCの商品を使って健康にやさしい空間ですごしていただく」といった社会的価値が非常に高いものです。社会と共通する価値を追求できるビジネスに携わっていることは、社員たちの確かなモチベーションになっています。

事業活動に伴う環境負荷の低減への要請は、ますます高まっています。そうした中で、様々なステークホルダーの皆様とのネットワークを大切にしながら、カーボンマネジメントを軸により大きな価値を生むソリューションの提供を目指していきます。

ソリューション開発統括部  
Ecoソリューション企画推進部長 平野 啓一郎

### ソリューション例 ① > オフィスのエネルギー消費を抑える

オフィス占有部のエネルギー消費のうち、約40%という大きな割合を占めるのが照明です。照明の効率化は、オフィスの省エネルギーに大きく貢献します。

#### ⇒ 感じる明るさをデザインする省エネ快適照明

イトーキでは、照明エネルギーの削減と快適な光環境の両立を可能にする「省エネ快適照明システム」を開発しました。

「省エネ快適照明システム」は、タスク・アンビエントという効率のよい照明配光が実現できる照明方式を採用。あわせて、「感じる明るさをデザインする」という従来にない照明設計手法をとっています。従来の照明設計は、照度（どのくらい光に照らされているか）の確保を基準に行われていましたが、省エネのために照度を下げると、空間全体が暗くなりがちでした。イトーキは照度に加えて輝度（どのくらい光を放っているか）にも配慮し、視野に入りにくい水平面よりも、壁や天井など視野に入る鉛直面（水平面と直角をなす平面のこと）に輝度をもたせることで、少ないエネルギーでも暗さを感じさせない照明を可能にしました。

#### ⇒ 省エネ率60%で、『省エネ・照明デザインアワード2011』に選出

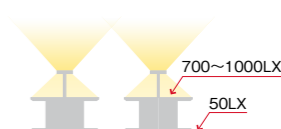
イトーキでは、2011年2月に「省エネ快適照明システム」を、東京ショールームへ導入。社員が働くワーキングショールームとして運用し、約1年にわたる実証実験を行い、60%以上の電力量削減を実現しました。約1年にわたる実証実験の結果は高く評価され、環境省主催『省エネ・照明デザインアワード2011』総合施設・公共施設部門で優秀事例に選出されました。イトーキでは、「省エネ快適照明システム」の成果を、大掛かりな天井工事の必要もなく、原状回復工事の手間や費用を削減できる商品「エクタル」として展開しています。

#### ▼ 従来型：天井全般照明



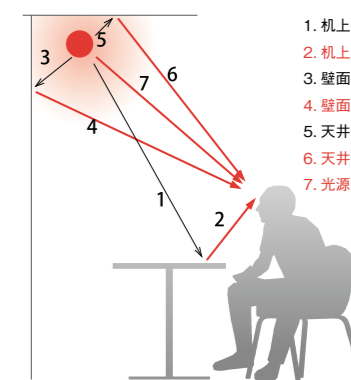
空間全体を均一な明るさで照らす設計。机の無い場所も一律の明るさで照らすためエネルギーの無駄が生まれやすい。

#### ▼ 省エネ型：タスク・アンビエント照明



空間としての最低限必要な明るさを確保するアンビエントライトと、机上面など局所的に必要な明るさを補完するタスクライトによる設計で効率的な照明配光が実現できる。

#### ▼ 人の視覚が感じる明るさ

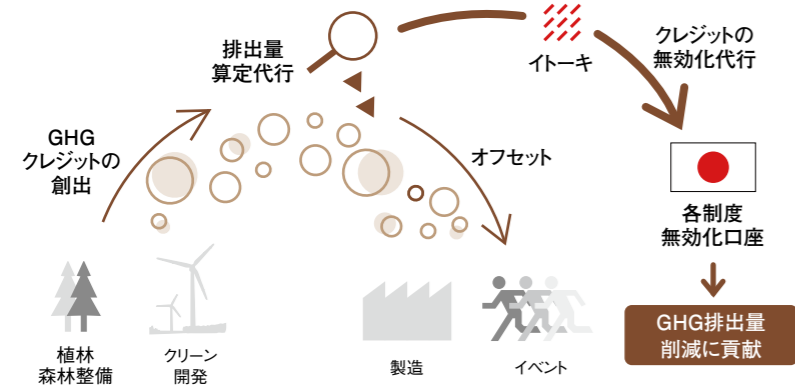


目で感じる光

ソリューション例 ② > カーボン・オフセットする

イトーキでは、自社製品のみならず、お客様の製品・サービスのオフセットを提供し、低炭素社会の実現を目指しています。

▼カーボン・オフセットの全体像



カーボン・オフセットとは

温室効果ガスの排出削減努力をして、それでも削減できない量を、他の場所で実施された削減・吸収活動から創出されたクレジットで相殺するという考え方。カーボン・オフセットが広まることで、企業の主体的な温室効果ガスの排出削減を促進し、京都議定書の6%削減、及び中期目標の25%削減の目標達成に貢献することが期待されています。

➡カーボン・オフセット付チェア スピーナを販売

イトーキでは、2010年から、自社のフラッグシップチェアであるスピーナで、自社製品の環境負荷の見える化、カーボン・オフセットを通じたGHG排出量削減を目的とした活動を進めてきました。スピーナの全32機種、総部品点数約600点の重量計測や、サプライチェーン全体でのエネルギーデータ収集といった膨大な作業に取り組み、「原材料調達」「生産」「流通」「廃棄・リサイクル」のライフサイクル全般における温室効果ガスの全量を算定。タスクチェアで初のカーボン・オフセット認証ラベルを取得しました。

2011年1月よりスピーナは、カーボン・オフセット対象製品として、排出量の全量をオフセットした状態で、お客様に提供しています。2011年度は1,136tCO<sub>2</sub>eのオフセットを実施しました。

➡カーボン・オフセットサービス事業に進出

2011年11月から、企業活動における環境貢献のニーズに対応する「カーボン・オフセットサービス」を開始。「オフセットする」「はかる」「つくる」からなる支援サービスで、最適なカーボンマネジメントを実施しています。

「オフセットする」では、イトーキがオフセットプロバイダーとして、お客様の目的に応じた適切なクレジットを提供しています。

「はかる」は、消費エネルギー、原材料、輸送などさまざまなデータ収集・分析が必要となる「排出量算定」です。オフセットしたい対象のGHG排出量を算定するために必要な複雑なデータ収集・分析を支援します。

「つくる」は、クレジット創出支援サービスです。J-VER、国内クレジットなどの創出に必要な書類作成や申請業務を支援します。

また、同時にクレジットの取引を、第三者機関が確認する気候変動対策認証センターによる「あんしんプロバイダー制度」にも参加し、透明性と信頼性の高いサービスに努めています。



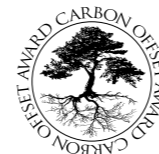
スピーナチェア

A W A R D

第1回カーボン・オフセット大賞 優秀賞を受賞

スピーナによるカーボン・オフセットプロジェクトが、優れたカーボン・オフセットの取り組みを行う団体を表彰する第1回カーボン・オフセット大賞(カーボン・オフセット推進ネットワーク主催/後援:環境省)の優秀賞を受賞しました。

スピーナは「イスが座り手にあわせる」といった画期的なコンセプトで2007年に誕生。国内外で数々のデザインアワードを受賞するとともに、洞爺湖サミット国際会議(2008年)では各国首脳の会議用チェアにも採用されたフラッグシップチェアです。



特集3 → 創造活動を支える

INSTATE



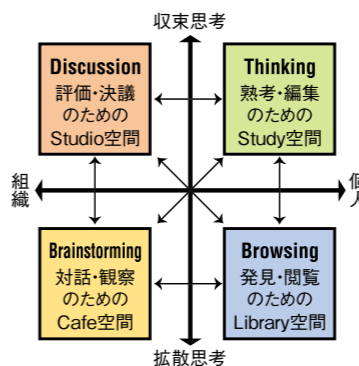
個人と組織の創造性を引き出す

「多様化するワーカーが生き活きと働ける空間へ」  
楽しさや喜び、モチベーションを高めるオフィスづくりを追求しています。

➡オフィスの創造性を見つめる

イトーキは、長年にわたって「オフィスの創造性」を探求してきました。そして、たどり着いたのが、「trans.」の思想です。「trans.」は、オフィスを収束思考—拡散思考、個人—組織という軸が生み出す、4つの思考モード「Thinking」「Browsing」「Brainstorming」「Discussion」とそれを誘発する4つの場「Studio」「Cafe」「Study」「Library」を設定し

▼「trans.」の4つのモードの考え方



ています。アイデアが交差し新たな視界が開けるディスカッションの場「Studio」。リラックスした中から、新しい創造が生まれるブレインストーミングの場「Cafe」。思考に集中し、考えをまとめあげていくシンキングの場「Study」。新しい情報を発見し、潜在する知識や経験を活性化するブラウジングの場「Library」。これらを自由に、かつ瞬時に変換「trans.」することが、オフィスの創造性を生み出すためのポイントになります。

イトーキは、「trans.」の思想をベースに、多彩なワークシーンをフレキシブルに作り出す先進的なワークステーションを提供しています。2011年は、「trans.」が設定する4つの思考モードと場を人や時代の変化に合わせて自在に組み替えるという斬新なコンセプト「モザイク」をもとにしたCORE&CELL(コア&セル)、2012年2月には、パーソナルワーク、グループワーク、グループミーティングなど多様なワークスタイルへの対応を特徴としたINSTATE(インステート)を発表しています。

さらに、新たな価値を持つオフィス空間を目指して、世界的なプロダクトデザイナーと積極的な協業を展開。従来にないワークスタイルを可能にする独創的な「クエイティブワーク家具」に取り組んでいます。



「オフィスの中における準室内的空間を家具でつくる」をテーマにつくられたcacomi(カコミ)。(デザイン:安積伸)

Voice | 協業先の声

個人的で説得力のある商品提案に期待

cacomi(カコミ)は、私の第一提案に対してイトーキの担当チームが商品企画としての可能性を広げ、さらに私がフィードバックされた案に再考を加えデザインをまとめました。「開発過程でのキャッチボールの間に、商品企画としても強化され、デザインとしてもブラッシュアップされていく」という、非常によい協働関係で仕事ことができました。

私にとって「ITOKI」というブランドは、パイオテプブル(※)など独創的でマーケット訴求力の強い商品を提案するところに魅力を感じています。世界のコンペティターに対して堂々とオリジナリティで勝負を挑む商品提案、「これはとても新しい視点の商品だ」と業界関係者をうならせるような、個人的で説得力のある切り口を持つヒット商品を期待しています。

※有機的な天板形状によりフレキシブルに使うことができるミーティング向けテーブル。



プロダクトデザイナー 安積伸

## すべてのワーカーが 快適に働ける環境をつくる

性別、年齢、体格、また文化や習慣が違う、さまざまなワーカーが働くオフィス。イトーキは、ワーカーにとって最も身近な存在であるチェアを通じて、ひとりひとりが快適に働く環境を提供しています。

### ④イトーキのチェアの基本思想

一般的にワーカーは、オフィスに約8時間拘束されます。職種によりますが、中にはずっと座りっぱなしという人もいます。座っていて身体の何処かが痛くなるようなチェアでは、仕事どころではなくなり効率が低下してしまいます。

また、チェアは直接人体に接するので、健康にも影響します。「座っていても疲れない（身体に余計な負担を掛けない）」というのは、オフィスチェアにとって重要な要素となります。

イトーキは、長年にわたり、一人ひとりの座り心地にこだわったチェアを開発。世界初、業界初といった独自機能を持つ製品づくりに挑戦してきました。イトーキのチェア的设计思想となるのが、企業ビジョンでもある新Ud&Eco styleの実現です。Ud(ユニバーサルデザイン)の面では、購買担当者・使用者に対する配慮を施し、長く座っても疲れないもの、安心して購入して頂けるものを追求。Ecoの面では、「なるべくゴミを出さない」「余計なエネルギーを使わない」といったポイントにくわえ、「パーツごとに着せ替え可能にすることで、長くお使いいただける」といった独自の発想による製品を展開しています。

イトーキのチェアを代表する製品に、2006年から販売を続けるカシコチェアがあります。カシコは世界で初めて座る人の性別にフォーカスしたチェアです。オフィスのチェアはこれまで男性の目線で作られてきました。それに対しカシコは、女性を主役にして開発されました。男性と女性で異なる骨格・筋力や、女性に多いふくらはぎのむくみに着目し、新規に開発した背座形状と機構を備えています。

カシコを購入いただいたお客様からは、「この椅子を導入することで女性を大切にできる会社としてイメージが向上した」と評価をいただいています。



ef

#### ◀エフチェア

振り向く、電話をとる、引出しを開けるなど、上半身の多様な動きを妨げず自由な動きを確保する設計で、疲れにくさ、快適性を追求。



fulgo

#### ◀フルゴチェア

シンプルで個性的なデザインのなかにも事務チェアの基本ニーズである、こわれにくさ、汚れにくさを実現。



cassico

#### ▶カシコチェア

働く女性の身体的・精神的疲労を軽減するチェアとして、女性スタッフが中心となって開発。

## Voice | 担当者の声

### 存在自体を意識しない チェアを目指す

従来にないオフィスチェアを企画するには、外部の研究機関の力を活用したり、他分野の椅子作りの発想を積極的に取り入れています。最近の商品では張地の着せ替えを簡易化してロングライフを実現したり、組立や分解を楽にするためビスを削減するという取り組みを行っていますが、これは、車両用シートやチャイルドシート、ダイニングチェア等の考え方をヒントにしたものです。

使われる場所や使う人によって、椅子への要求は変わります。ただし、普遍的に要求されるものもあります。それが、「かっこいい」「座り心地がいい」そして「地球環境に優しい」ということです。

デザインは、存在感はあるが主張しすぎない。座り心地は、長時間座っても疲れない。当然ながら地球には負荷をかけない。究極的には、存在自体を意識しない“空気”のような存在に近づけられたらと考えます。

株式会社イトーキ  
生産本部商品開発統括部  
チェア開発設計部長  
管 智士

## 東日本大震災とイトーキ

復旧から復興へ。震災から一年間のイトーキの動きを報告します。

### 震災直後の動き ～お客様サービスの復旧へ～

2011年3月の東日本大震災によって、イトーキでも業務上に影響をもたらす被害が発生しました。この震災により、当社を含め、グループ会社、代理店、協力会社において、商品の破損、生産設備の損壊、配送ルートの寸断など、生産・物流・営業体制に多大な影響が出ました。特に、物流拠点である東京テクノパーク、東北物流センターの被災、受発注システムの混乱は、納品や工事サービス遅延という事態を招きました。イトーキでは、災害対策本部を中心に、適切な情報開示に努めながら、全社を挙げて復旧に向けた作業に取り組みしました。



災害対策本部全体会議

### オフィスの専門家としての活動

震災を契機に、各企業において災害対策、節電対策への意識が大いに高まりました。イトーキでは、「オフィスの専門家としてお客様に貢献したい」という思いから、地震対策や節電に関するアドバイスを提供する「セーフティオフィスセミナー」を4月21日を皮切りに各地で開催しました。家具の転倒防止から、備蓄準備、災害マニュアル整備、節電対策まで、災害をめぐる幅広いテーマを取り上げ、参加企業から多くの反響をいただきました。



「セーフティオフィスセミナー」の様子

### 義援活動への取組み

義援物資と義援金、あわせて当初予定していました総額2億円相当の支援を行いました。

#### ●義援物資

新学期のはじまる4月に各地の被災地域の学童にランドセル合計515個を送りました。また、学習デスク450台分、復興支援のため公共施設を中心にオフィスチェア1000脚を提供しました。

#### ●義援金

総額9,287,920円をイトーキ、イトーキグループ会社の従業員とその家族や関係者からの募金によって集めました。一部を被災した社員への義援金とした後、日本赤十字社などに寄付しました。

### 事業活動を通じた復興支援

#### ●復興合板家具

2011年11月に日比谷公園で行われた東日本大震災復興支援プロジェクト「日比谷ライブ&マルシェ」で、被災地の木材の活用を訴えました。仙台市沿岸部の津波被害を受けた防風林を使った復興合板でテーブルやイスを製作し、来場者の方に利用していただきました。



日比谷ライブ&マルシェ

復興合板の焼印

#### ●東日本大震災復興支援型国内クレジット

2011年より開始している自社のカーボン・オフセットサービスで、経済産業省による「東日本大震災復興支援型国内クレジット活用スキーム」によるクレジットを提供しています。カーボン・オフセット1トンあたり750円が被災地に寄付されます。イトーキも2012～2013年版総合カタログのカーボン・オフセットで活用しています。



## 健全で透明な 企業経営に努めています。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/mngsys/index.html>



## 信頼できる 企業としての基盤づくりに 取り組んでいます。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/mngsys/risk.html>

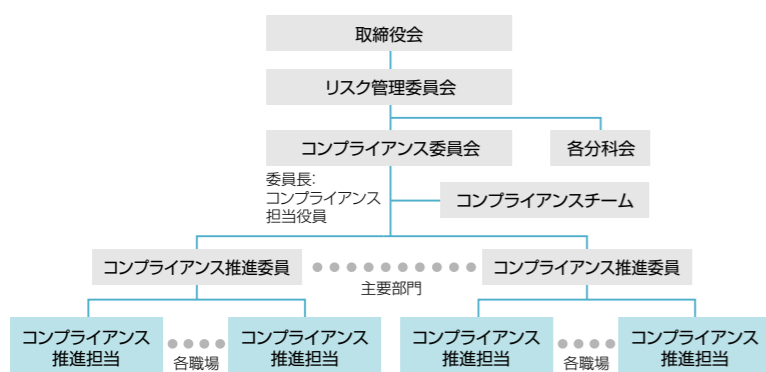
### ➡ コーポレート・ガバナンスへの取り組み

イトーキは、監査役制度を採用し、取締役会において経営の重要な意思決定、業務執行の監督を行っています。さらに2005年より、「執行役員制度」を導入し、業務執行の機能強化および経営効率の向上を図っています。監査役は、監査役会を構成し、取締役会をはじめとする重要な会議に出席し、取締役の業務執行状況を監査しています。また会計監査人は適法な会計処理、投資家への適正な情報開示の観点から会計監査を行っています。社内においては、執行部門から独立した内部監査部門を設置し、グループ全体の内部監査の充実を図っています。

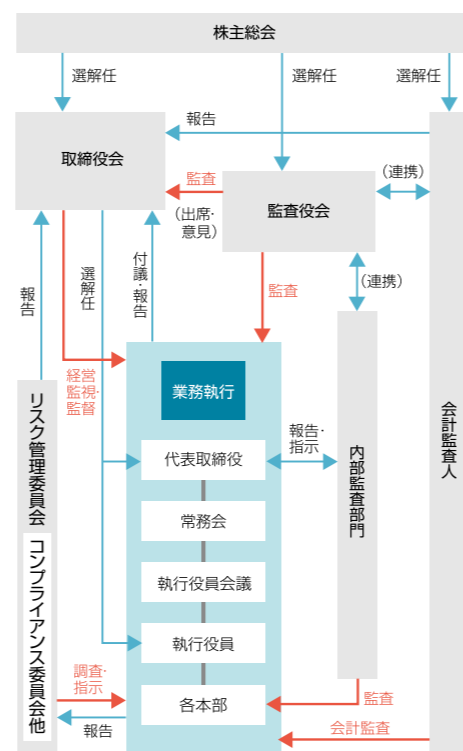
### ➡ 内部統制システムを構築

イトーキでは、会社法の施行に伴い、内部統制システムの全社横断的・網羅的・一元的な構築に向けて、2006年5月、取締役会において基本方針を定め、この基本方針に則った体制の整備に努めています。2008年3月、同年12月および2011年3月には、社内体制の変更などによる基本方針の一部改定を行っています。また、金融商取引法に基づく財務報告にかかわる内部統制報告制度（J-SOX法）への対応については、2009年1月より「内部統制監査室」と「内部統制推進室」を設置し、財務報告の信頼性・適正性を確保するために必要となる体制の構築、運用に努めています。現在は、業務管理部業務推進室が中心となり、内部統制システムに取り組んでいます。

### ▼ コンプライアンス推進体制図（2012年4月現在）

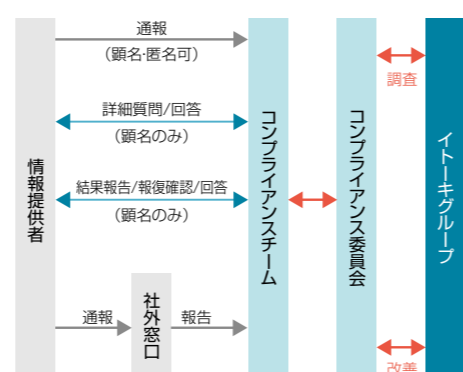


### ▼ コーポレート・ガバナンス体制図



取締役会は社外取締役2名を含む全6名の取締役で構成され、監査役会は社外監査役2名を含む全3名の監査役で構成されています（2012年4月現在）。

### ▼ 内部通報制度図（ヘルプライン対応フロー）



### ➡ リスクマネジメント体制の強化

2009年度に新設したリスク管理部を中心に「イトーキグループリスク管理基本規程」のもと、リスクマネジメントの体制づくりを進めています。リスクの未然回避策として、独自の手法でイトーキの抱えるリスクを洗い出し、優先順位を設定。2010年4月には重要度の高い52項目を、2011年6月には重要度の高い50項目を一覧として明文化し、リスクに対する共通認識の徹底とリスクの未然回避に活用しています。

### ➡ 買収防衛策を更新

2008年に当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる取組みのひとつとして、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」を導入。2011年には、プランの一部変更を行い更新しています。

### ➡ 独占禁止法遵守を徹底

2010年3月の独占禁止法違反による排除措置命令を受け、再発防止のためのコンプライアンス体制の強化に力を入れています。営業部門を対象に独占禁止法遵守の、eラーニングによる教育を行っています。また、リスク管理委員会において、リニエンシー（課徴金減免制度）申請フローを決定しました。

### ➡ コンプライアンスの意識向上

2005年に制定した「イトーキグループ行動規範」の改訂を重ねながら、コンプライアンス意識の徹底を図ってきました。2011年度も、前年に引き続きコンプライアンス意識調査を実施するとともに、コンプライアンスの観点から注意すべき内容を盛り込んだコンプラ・ニュースの発信回数を増やし、一人ひとりの意識の向上を図っています。

### ➡ コンプライアンス体制を構築

全社のコンプライアンス体制の中心としてコンプライアンスチームを事務局とし、担当役員を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置。さらに、主要部門にコンプライアンス推進委員、全部門にコンプライアンス推進担当を配置しています。コンプライアンス委員会は、グループ経営すべてに対する調査、報告・指示の役割を担っており、2011年度は2回開催されています。

### ▼ 事業継続に関わるリスク50項目

### ▼ 個人情報保護を徹底しています

1. 書類や領収書などをだしっぱなしや置きっぱなしにしない。
2. 書類や領収書などを許可無く勝手に持ち出さない。
3. 書類や領収書を汚したり破めなくなってしまうことをしない。
4. 書類や領収書などの取扱いに注意し紛失しない。

Nos temos as regras sobre a proteção das Informações Pessoais de clientes, das empresas relacionadas, e de os funcionários. Por favor leiam os itens abaixo e cumpram os.

As Regras sobre a Proteção das Informações Pessoais

1. Favor não deixem os documentos e os formulários de instruções, desarrumados.
2. Favor não levem fora da firma os documentos e os formulários de instruções sem ter nenhuma permissão.
3. Tomem cuidado com os documentos e os formulários de instruções. Tratem os de forma adequada para que sempre consigam ler direito. Mantenham os documentos e os formulários de instruções limpos, não façam os ficar sujos.
4. Tomem cuidado com os documentos e os formulários de instruções. Não percam os.

在籍する外国人従業員に向けても、個人情報保護を徹底するため、ポルトガル語、中国語、ハングル語版を作成し、工場等への掲示を行っています。





東京ショールームの展示風景

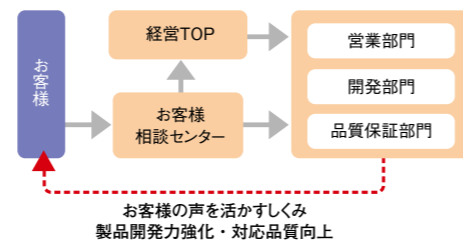
## お客様とのより良い信頼関係を目指します。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/customer.html>

### ⇒ お客様相談センターを開設

お客様相談センターは、お客様からイトーキへの窓口として1991年に開設しました。お客様との真のコミュニケーションを目指し、誠実に対応することを心掛けています。お客様からいただいたご指摘は、企業にとって重要な情報ととらえ、社内関連部門へ伝達することで、お客様によりご満足いただけるよう改善に努めます。これからもお客様のご要望に合った正確な情報を迅速にご提供し、信頼される企業を目指します。

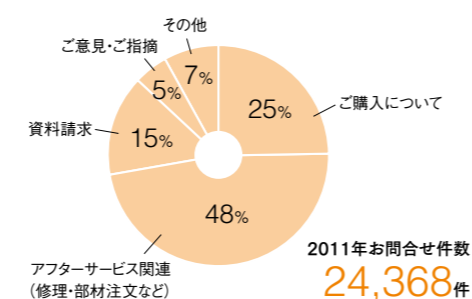
#### ▼ お客様相談センター受信業務の流れ



### ⇒ ショールームを全国に展開

全国6カ所（東京・大阪・横浜・名古屋・広島・福岡）にあるショールームでは、お客様にイトーキの提案する新しいワークスタイルをご覧いただけます。東京ショールームや大阪ショールームについては、社員が実際に働いているところを体感できるワーキングショールームとなっています。また、歴代のヒット商品やオフィス文化の歩みを伝える史料館もあります。

#### ▼ お客様相談センターに寄せられたお問い合わせ



#### ▼ お客様の声を活かして

ホームページのデジタルカタログ利用にあたり、お客様から操作上の使いづらさのご指摘をいただきました。多くのお客様により分かりやすくお使いいただくため、社内関連部門へ伝達し改善を重ねております。

お客様相談センター ☎ 0120-164177  
ホームページからのお問い合わせ  
<http://www.itoki.jp/cs/>

### ⇒ イトーキの製品品質

イトーキは、ISO9001にもとづく品質マネジメントシステムを構築し、顧客満足の視点での品質管理を行うとともに、つねに品質の向上を図っています。

新製品の開発においては、企画、設計、量産試作の各段階でデザインレビュー（設計審査）を実施し、各専門分野の審査を経て、新製品として発表される仕組みになっています。

製品安全基準もJIS規格、業界規格のみならず市場情報を反映した社内基準を設け、品質を確認しています。

### ⇒ 教育研修を通じて品質を追求

設計開発、製造、品質管理などに関係する専門的な技能、知識を習得しレベルアップを図るための専門的な教育を積極的に開催しています。

また、品質と効率の向上を図るために、製造部門はもちろん、スタッフ部門、さらにはグループ会社も巻き込み、トータルな品質改善活動を展開しています。

#### ▶ 振動試験

社内に製品の耐震性能を実験する「3次元振動試験機」を保有し、各製品の耐震性能の把握など、地震に対する安全確保の技術蓄積を図っています。



年間売上高ランキング上位10社の社長の皆様とイトーキ役員との記念撮影

## 共に販売していくパートナーとして、つながりを深めています。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/agent.html>

### ⇒ 「全国代理店社長会議」を開催

全国代理店様との強固な結束や、共に飛躍することを決起する場、また弊社にとっては、日頃の感謝をお伝えする場として、年に一度「全国代理店社長会議」を開催しています。

第1部においては弊社経営・営業方針の発表、第2部においては売上高上位10社と優秀代理店の表彰式、第3部においては著名人による記念講演を行っています。会議終了後には、懇親会を実施し「代理店様同士の交流の場」としてご活用いただいています。



代理店様主催展示会

### ⇒ 招待会・展示会を支援

代理店様の「トータル提案による受注」を可能とするため、代理店様独自の招待会や、展示会への支援を行っています。弊社ショールームを利用しての招待会や、担当営業が説明員となって、代理店様のお客様を共に迎え、「オフィス空間における省エネ提案」や「ICT機器の体感」をしていただいています。また、弊社のエコソリューション商材である、エコニファの販売も代理店様と共に、全国各地で拡大しています。



協業によるエコニファ納入実績

### ⇒ 人材育成を支援

代理店社員の皆様の販売力強化を目的とし、各種研修会（IDFカレッジ）を実施しています。例年、参加者からのアンケートを元に、カリキュラムを構成しています。特に2012年度からは、職種を問わず要求されるスキルを取得できるよう、単発研修を複数設置しています。

また、外部の公開セミナーへ会員価格で参加可能できるよう、自己啓発の支援も行っています。



IDFカレッジの様子

### ⇒ Webサイトで情報を共有化

お客様のお問合せ等に、タイムリーに対応できるよう代理店様専用のWebサイト「i-wos」を開設しています。

「i-wos」では、イトーキ製品の仕入価・在庫状況の検索ができる業務支援機能の他、製品の販促資料やイトーキの広告開示情報の提供も行っていきます。

全国の代理店社員の約29,000名（2012年3月現在）にご活用いただいています。



代理店様専用Webサイト



育児に携わる社員の交流イベント「i-mama&i-papa」の様子

## 従業員が生き生き働ける環境づくりに取り組んでいます。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/employee.html>

### ⇒ 人財育成の充実に向けた新教育体系

求める人材像を「イキイキと新しい価値を生み出し、お客様に感動をもたらす人材～“今何をすべきか”自ら考え、周囲を巻き込み、最後までやりきる～」とし、この人材の育成に向けて新教育体系の整備を進めています。具体的には、長期の営業現場実習や工場実習を盛り込んだ新入社員研修の見直しや、海外人材の定期的輩出を目的とした海外トレーニング制度の新設、異業種交流によって視野を広げることを目指す武者修行研修の実施などを検討しています。

### ⇒ 人財育成につながる評価制度

イトーキの評価制度は、目標の達成度で評価する「業績評価」と職務遂行能力を評価する「職能執務評価」から構成されています。目標設定・評価は本人の申告や上長との面談を踏まえて決定され、給与・賞与・昇格に反映されます。特に、今年度から「職能執務評価」の仕組みを大幅に見直し、具体的な業務の中での能力の発揮場面を、期初の段階で上司と部下の間でイメージしてもらうことにしました。そうすることで、評価制度を単なる査定の道具とするのではなく、日々の上司と部下のコミュニケーションの活性化による人財育成につなげていきます。

### ⇒ 多様な働き方に向けた新人事制度

2012年度より導入した新人事制度では、社員のキャリアに対する考え方の多様化を踏まえ、総合職・エリア総合職・技能職・事務職などの複数の職群を設定し、自らのキャリアに相応しい職群を社員に選択してもらうものとしました。また、戦略的なローテーション実施の検討を進めており、組織の強化と多様な経験を積むことによる個々の人財育成の両立を目指しています。

### ⇒ ワークライフバランスを推進

育児休業・短時間勤務を法定期間より延長するなど、育児・介護支援制度を充実させており、仕事と家庭の両立を支援する働きやすい体制・職場環境づくりを目指しています。また、テレワークなどこれまでとらわれない働き方を検討することで、ワークライフバランスを推進していきます。

### ▼ 従業員関連データ

	女性	男性	総計
正社員	357	1,304	1,661
正社員以外（直接雇用する契約社員）	49	329	378
正社員平均年齢	34歳9ヶ月	41歳10ヶ月	40歳4ヶ月
正社員平均勤続年数	11年1ヶ月	16年10ヶ月	15年7ヶ月
正社員以外平均年齢	43歳1ヶ月	46歳8ヶ月	46歳3ヶ月
正社員以外平均勤続年数	5年11ヶ月	12年11ヶ月	12年0ヶ月
障がい者雇用人数	4	26	30
障がい者雇用率	1.82%		
再雇用人数	2	95	97
産休取得者数	17	0	17
育休取得者数	18	0	18
短時間勤務者数	36	0	36
シフト勤務者数	8	3	11

正社員および正社員以外の雇用人数の集計は、当社が定める各種規程・制度の対象となる社員および契約社員を対象としています。2011年12月31日現在。産休・育休取得者数は、2011年度に休業を開始した人数です。



新入社員研修風景

### ⇒ 障がい者雇用への取り組み

2011年度の障がい者雇用率は1.82%でした。今後も法定雇用率（1.8%）を満たすだけでなく、障がい者雇用率の向上に向けて、雇用を進めていきます。

### ⇒ セクハラ、パワハラ対策

ハラスメントについては、事実の認定から処分に至るまでのフローを明確にしていくことで、公正な対応をしていきます。また、ハラスメント規程整備による規制のみならず、上司と部下の活発なコミュニケーションを通じて、こうした問題がおきない生き生きとした職場づくりに向けて取り組みます。

### ⇒ 時間管理ルールの徹底

労働時間管理の適正化に向け、時間外労働や休日出勤の事前申請制度の徹底など、長時間労働・労働時間管理に対する意識改革のため「コンプライアンス遵守・時間外ルール」徹底チェックシートを設定しました。関連部門が協力し、「時間管理ルールの徹底に向けた部門会議」を順次実施し、改善を図っています。

### ⇒ メンタルヘルス研修

社員一人ひとりが生き生きと働ける場の提供を目指し、2006年からメンタルヘルス研修を開催しています。全社員が一度は受講できるように設定しており、管理職向けの研修では安全配慮義務や傾聴を中心としたラインケアを、一般職層向けには自らをストレスから守るセルフケアを学んでもらいました。

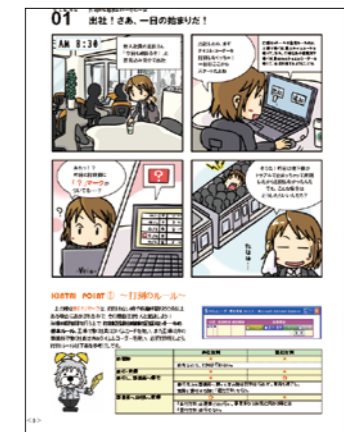
### ⇒ 安全・安心な環境づくり

人が主役の環境づくりを提唱するイトーキは、法令を遵守し従業員が安全で安心して働ける職場環境を構築するとともに、健康の維持と増進に努めています。安全は企業活動の基本条件であることを全員が認識し、労働災害の防止を図ることを目的に安全衛生活動を積極的に推進しています。労働災害ゼロを目標に、全社安全衛生委員会、事業場ごとの安全衛生活動、協力会社様との災害防止協議会、安全大会を基に活動しています。

### ⇒ 従業員による活力あふれる職場づくり

イトーキ労働組合が中心となって、社員のスキルアップやより豊かで健康な生活につながるさまざまなイベントを行っています。2011年は、次代を担う若手社員の社内ネットワークの構築、スキル、モチベーション向上を目的としたワークショップ「i-next」（6月・7月、大阪）、育児世代の社員が仕事の両立するための課題や解決方法をともに考える「i-mama&i-papa」（7月、東京）、「食品ロスの低減をテーマにした料理教室」などを開催しています。

### ▼ KINTAI NAVI



適正な労務管理への理解のため、労働時間管理ルールを説明したハンドブックを作成しています。イラストにより、さまざまな勤怠に関する疑問や、最低限知っておく必要がある事項をわかりやすく解説しています。新入社員研修の講義でも使用し、入社時から正しい理解を持ってもらえるよう指導しています。

### ▼ 労働災害に関するデータ（2011年度）

関西工場、関東工場のデータ

休業災害件数	不休業災害件数	度数率	強度率
3件	5件	3.69	0.24

※度数率:100万延べ実労働時間あたりの労働災害による死傷者数  
※強度率:1,000延べ実労働時間あたりの労働損失日数



関西地区安全大会の様子（2011年9月15日開催）



「i-next2011」の様子



## 皆様とのつながりを 情報開示と対話を通して 築いていきます。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/stockholders.html>



中央区の森活動の参加者たち

## さまざまな活動を通じて 人と地球が「いきいき」 とする社会に貢献します。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/society.html>

### 公正・迅速な情報開示への取組み

イトーキでは、経営や事業活動に関する情報を公正かつ迅速に開示することに努めています。そのポリシーは、各種法令および東京証券取引所の定める適時開示規則に基づいた情報開示はもとより、株主・投資家の皆様のニーズに対応した情報についても積極的に開示することに努めています。情報開示においては、その重要性や内容に応じて、説明会など最適な方法を選択して行うとともに、ホームページ上に記載しています。

### 継続的かつ安定的な配当政策を推進

イトーキでは、株主の皆様への利益還元を経営の重点政策のひとつと認識し、会社の収益状況、内部留保の充実、今後の事業展開などを総合的・長期的に勘案した上で、継続的かつ安定的に配当することを利益配分の基本方針としています。

2011年度の配当金は、1株につき5円としました。

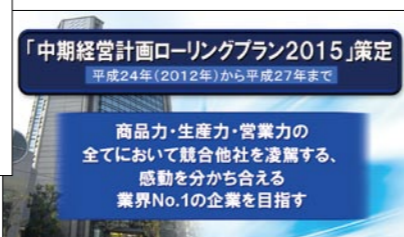
### 株主・投資家の皆様との対話を重視

株主・投資家の皆様からいただいたご意見を、イトーキでは、経営に反映していくことを重視しています。株主の皆様に対する年1回の定時株主総会をはじめ、機関投資家・アナリストの皆様に対する年2回の決算説明会を開催しています。こうした説明会では、経営トップ自らが業績の説明だけでなく、中期経営計画ローリングプラン2015を発表するなど事業戦略や経営の方向性に関する説明を行っています。また、このほか国内機関投資家訪問、海外投資家とのテレカンファレンスなど個別ミーティングや事業説明会、施設見学会を適時実施しています。

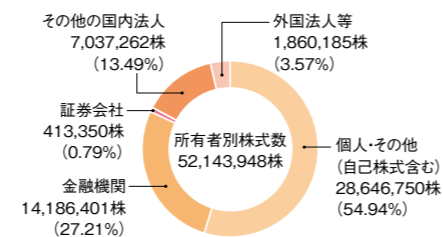
### 株主総会映像にはCUD (カラーユニバーサルデザイン) を採用



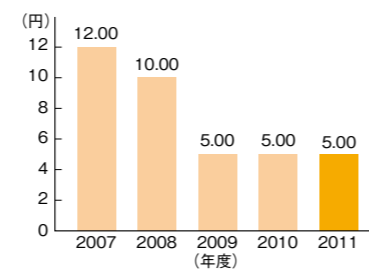
第62回定時株主総会 (2012年3月28日開催)



### ▼イトーキの株主構成 (2011年12月31日現在)



### ▼1株当たり配当金の推移



機関投資家向け決算説明会 (2012年2月28日開催)

### エコキャップ運動で子供たちにワクチンを

ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供たちにワクチンを送るボランティア運動を実施しています。2011年10月時点でのグループ企業の参加分も含め回収した累積回収数は、327,620個となり、ワクチン本数に換算すると、409人分の購入資金にあたります。

### 地域の環境をもっときれいに豊かに

全国にある工場や物流センター内の緑化や、オフィス周辺地域の清掃など、地域の一員として美化活動を行っています。また、近隣の児童を招いての工場見学会やショールーム見学会を開催するなど、環境・社会活動を通じて地域交流を行っています。

### 地球温暖化を防止する森林保全作業を体験

東京本社のある東京都中央区では、地球温暖化防止対策の一環として、東京都西多摩郡檜原村にある「中央区の森」で、間伐、枝打ち、下草刈りなど森林保全作業の機会を提供しています。イトーキでも、2011年11月12日に従業員38名が「中央区の森」への間伐ツアーを行い、スギ、ヒノキの間伐作業と丸太の運び出しを行いました。

### ステナイBOOK活動に参加

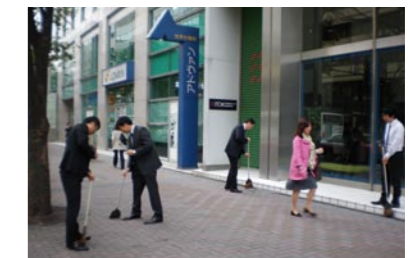
「ステナイBOOK」は、NPO法人シャプラニール (市民による海外協力の会) とブックオフコーポレーション株式会社が実施する、不要な本やCDなどを、ストリートチルドレンや南アジアの人々の生活向上のための支援活動に役立てる活動です。イトーキでは2009年12月から、企業としてこの活動に参加しています。

### Ud、環境保全の普及を目指して

Ud (ユニバーサルデザイン) や環境の関連団体やNPOと連携し、最新の動向調査や研究などを行っています。これらの研究成果は、企業活動に活かすとともに、研究発表や講演会などを行い、社会全体の普及に努めています。



淀川クリーン作戦2011 (2011年7月17日開催)



オフィス周辺の清掃活動



ステナイBOOK 社内ポスター

### ▼ユニバーサルデザインと環境に関する主な参加団体 (2011年12月現在)

- ・グリーン購入ネットワーク (GPN)
- ・エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会 (SPEED研究会)
- ・日本人間工学会
- ・国際ユニバーサルデザイン協議会 (IAUD)
- ・日本LCA学会
- ・ケミレス推進プロジェクト
- ・環境経営学会
- ・プラチナ社会研究会 プラチナシティ・プロジェクト
- ・新世代オフィス研究会 (NEO)

# 企業活動のすべての領域において 地球環境への負荷を低減し、その保全に努めます。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/plan.html>

## ■ イトーキ環境方針

当社の企業理念に基づき、以下の環境方針を定めます。  
株式会社イトーキ及びイトーキグループは、地球環境問題を21世紀の最重要課題であると認識し、持続可能な循環型社会を実現するため、企業活動の全ての領域で地球環境への負荷の低減を図ります。そして、さらに人の多様性を考慮した"人が主役の環境づくり"を目指します。

### ○行動指針

- 地球環境と人に配慮した製品・サービス及び空間デザインを提供します。製品開発においては、自社基準によるアセスメントを実施し、製品の「Eco(エコ)・プロダクト」化を推進します。また、人と地球が「生き生き」と共創する社会の実現を目指す企業コンセプト「新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」の実践に努めます。
- 日常の業務に環境活動を取り込み、地球環境の保全と汚染の予防に努めます。
  - 省資源、省エネルギー及びリサイクルの促進
  - 有害物質の管理の徹底と使用量の最小化
  - 地球温暖化ガス(CO<sub>2</sub>)及び環境汚染物質の管理による放出量の最小化
  - グリーン調達、グリーン購入の促進
  - 地球環境負荷の低減に資する技術の研究・開発
- 環境関連法規制等、その他当社が同意する規制・協定等を順守します。更に自ら環境基準を定め、これを順守します。
- 要員一人ひとりに環境方針を周知させるとともに、計画的な教育・訓練を通じて環境意識の向上を図り、業務に反映できるような人材を育成します。
- 環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

2009年4月1日  
株式会社イトーキ 代表取締役社長 松井 正

## ➡ 4カ年の環境中期計画(2009年～2012年)を策定し、環境活動を展開

イトーキ環境方針に基づき、2009年度スタートの4カ年の環境中期計画を策定しています。これに従い、10つのテーマごとに環境目標を定め、目標の達成に向けた活動を行っています。

1	Ecoプロダクト・Ud&Ecoプロダクトの推進	2	有害化学物質管理・情報開示
3	汚染防止	4	地球環境負荷低減に貢献する技術・ソリューションの研究・開発
5	地球温暖化の防止	6	廃棄物の削減とリサイクル促進
7	水資源の保全	8	環境マネジメントシステムの継続的改善
9	社会貢献	10	生物多様性の対応

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/purpose.html>

評価基準 ▲▲▲: 目標達成率 100%以上  
▲▲: 目標達成率 80%以上  
▲: 目標達成率 80%未満

## ■ 環境中期計画 全社環境目的・目標と2011年度実績

全社環境目的	環境目標	2011年度 目標値	2011年度 実績	評価	2012年度の目標値	詳細		
1 Ecoプロダクト・Ud&Ecoプロダクトの推進	Ecoプロダクトシリーズ数の向上、販売促進	Ecoプロダクトの開発 Ecoプロダクト製品の販売促進	製品アセス新基準の整合性確認済Ecoプロダクトの販売促進目標達成率85.1%	▲▲	Ecoプロダクトの開発、販売促進	→P10・P12		
	Ud&Ecoプロダクトシリーズ数の向上、販売促進	Ud&Ecoプロダクトの開発 Ud&Ecoプロダクト製品の販売促進	カーボンオフセットサービス事業サービス開始 環境負荷低減につながる付加価値を製品に付与	▲▲▲	Ud&Ecoプロダクトの開発、販売促進			
2 有害化学物質管理・情報開示	製品含有VOCの把握・管理	化学物質管理ガイドラインの運用徹底	製品含有化学物質ガイドラインを開発担当者に説明	▲	化学物質ガイドラインを新基準に折込新基準運用による新商品開発MSDS情報一覧更新	→P28		
	製品からのVOC放出量の把握	製品からのVOC放出量の把握	オフィス4品の測定用家具の選定測定方法の確立と実証試験関係部署への情報発信		製品からのVOC放出量の把握			
3 汚染防止	生産拠点の汚染防止	大気汚染、水質汚染、土壌汚染の防止法・規制等の100%遵守・管理の徹底	関東工場 塗装用水循環装置 バルブ停止忘れ 滋賀(フェア)工場 抜取り水質調査で窒素含有量が条例値をオーバー	▲	大気汚染、水質汚染、土壌汚染の防止法・規制等の100%遵守・管理の徹底	→Web		
4 地球環境負荷低減に貢献する技術・ソリューションの研究・開発	有害化学物質の削減技術の研究開発	ケミレス素材の開発	ケミレス認証制度の運用ケミレス素材の開発	▲▲	ケミレスパッケージの推進	→P28		
5 地球温暖化の防止	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	イトーキグループのCO <sub>2</sub> 排出量の削減	(単体)セグメント別寄与度の合計値で2007年度比-8% (単体除くグループ企業) 製造系:2007年度比-8% 非製造系:前年度比-1%		▲▲	(単体)セグメント別寄与度の合計値で2007年度比-7.3% (単体除くグループ企業) 製造系:2007年度比-13.4% 非製造系:前年度比-3.3%	→P24~25	
	お客様先でのCO <sub>2</sub> 削減を含む環境負荷の低減	環境負荷低減に関する提案の実施Eco提案目標、SR(ショールーム)動員目標、AB返品率	Eco提案件数 目標達成率:152.8% SR(ショールーム)動員目標達成率:140.4% AB返品率 目標達成率:68.1%	AB返品の低減 環境配慮型オフィスSR(ショールーム)展示への動員Ecoを取り入れた提案の実施。売上高B返品比率低減コンテナ納入数の拡大		→P8~10		
	カーボンフットプリント制度への対応	製品CO <sub>2</sub> 情報の把握、公開	次期認証製品への対応準備	試行期間終了後の本制度化に向けた体制作りが課題。		→Web		
	EOM(エコオフィス・マネジメント)の開発	環境配慮型ワークの支援	エコワークプレイス提案案件 遠隔地会議システム	エコワークプレイス提案 年間目標達成率:143% 遠隔地会議システム他提案 年間目標達成率:120%		▲▲▲	環境配慮型ワークプレイスの提案	→P6~10
		環境配慮型ビジネスの創造	Econifa商談関与額	Econifa商談関与額 年間目標達成率:102%		環境配慮型ビジネスの創造・展開		
6 廃棄物の削減とリサイクル促進	産業廃棄物の削減とリサイクル	産業廃棄物排出量の削減	売上高原単位で前年比-1%	売上高原単位で前年比-14.7%	▲▲▲	目標化取り止め(全社の数字は下記、生産、物流、エコオフィスの実績にて報告)	→P26~27	
		産業廃棄物のリサイクル促進	リサイクル率目標2012年98%	産業廃棄物リサイクル率99.4%				
		事業系一般廃棄物排出量の削減	売上高原単位で前年比-1%	売上高原単位で前年比-9.3%				
		事業系一般廃棄物のリサイクル促進	リサイクル率目標2012年99%	事業系一般廃棄物リサイクル率98.3%				
7 水資源の保全	生産活動に伴う水資源使用量の削減	生産高原単位で前年比-1%	生産高原単位で前年比-6.8%	▲▲▲	生産高原単位で前年比-1%			
8 環境マネジメントシステムの継続的改善	グループとしての環境管理活動	グループ会社のEMS推進 2012年全連結子会社EMS構築完了	2012年6月1社認証審査予定 残り4社G調達認定予定	▲▲	グループ会社のEMS推進 2012年全連結子会社EMS構築完了	→P30~31		
	グリーン購入・調達の実施(生産部門)	2012主要調達先グループ調達率90%	主要調達先グリーン調達率86.3%	▲▲	2012主要調達先グループ調達率90%			
	グリーン購入・調達の実施(仕入製品)	2012主要仕入先グループ調達率90%	主要仕入先グループ調達率96.6%	▲▲▲	2012主要仕入先グループ調達率90%	→Web		
	グリーン購入(全社)	グリーン購入の方針策定	グリーン購入の方針策定は次期に持越し	▲	グリーン購入の方針策定			
9 社会貢献	環境教育への貢献	社外環境教育の推進	社外環境教育についての情報収集は完了	▲▲	社外環境教育の推進			
	地域に貢献できる活動の実施	全社・グループ会社での地域貢献活動推進	東京都中央区の「中央区の森」において森林保全活動を実施。地域で行う近隣の清掃活動は継続実施	▲▲	全社・グループ会社での地域貢献活動推進	→P21		
	エコマインドあふれる社員の育成	全社・グループ会社のすべての要員のイトーキグループ環境活動への参画意識の醸成	全社教育体系における環境教育については、新入社員研修、TOP研修は行う。階層別、昇進時研修は検討を継続する。		全社・グループ会社のすべての要員のイトーキグループ環境活動への参画意識の醸成			
10 生物多様性の対応の推進	JOIFA"合法性木材"事業者認定の順守	-	-	-	JOIFA"合法性木材"事業者認定の順守	→P29		



千葉工場に導入された太陽光パネル

## 事業活動全体でCO<sub>2</sub>削減に努めています。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/warming.html>

### ⇒環境負荷の低い工場を目指して

イトーキでは、高効率な設備、自然エネルギーの導入、組織体制の確立など、環境負荷の低い工場づくりに積極的に取り組んでいます。滋賀工場では2011年に千葉工場に次いでLPGから都市ガスへエネルギー転換を行いました。都市ガスの原料である天然ガスは、地球温暖化を引き起こすCO<sub>2</sub>、光化学スモッグの原因となるNO<sub>x</sub>、酸性雨を引き起こすSO<sub>x</sub>の発生量が石油、石炭系燃料に比べて少ない環境負荷の低いエネルギーです。2012年度は関西工場（デスク・パネル）も導入予定です。



滋賀工場の自家発電装置

### ⇒コージェネレーション、太陽光発電システムを導入

滋賀工場では、CO<sub>2</sub>排出量と使用電力量の削減を狙いとするコージェネレーションシステムを太陽光発電システムと併せて導入しています。2011年夏の節電要請にもこれらを用いました。自家発電のメリットを活かしながら、エネルギー効率を配慮した最適な管理に取り組んでいます。再生可能エネルギーの代表である太陽光発電システムは千葉工場でも導入されています。2012年度は関西工場（デスク・パネル）も導入予定です。

### ⇒エネルギー管理の知識を強化

関西工場（デスク・パネル）と滋賀事業所（キャビネット、チェア、電子機器、および滋賀ロジスティクスセンター）の2カ所が省エネ法の第2種エネルギー管理指定工場にあたります。イトーキは、「より多くの社員が省エネの専門知識を持って自発的に活動すべきである」という考えのもと、教育研修を積極的に実施。法的義務以上のエネルギー管理員を養成し、得たエネルギー知識、省エネ技能・技術等を日常の管理・改善業務に活かしています。

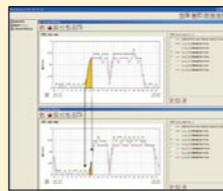
### ⇒エネルギーの使用状況を監視

生産工程や各設備単位の省エネルギー対策のため、エネルギーの使用状況をリアルタイムに監視できる「エネルギー監視システム」を関西工場（デスク・パネル）および滋賀事業所、千葉工場に設置しています。これらの監視データをもとに、設備の運用面も含めた省エネルギー施策を実施しています。また、データをみて原因追及のできる監視力の強化も推進しています。

### 工場での改善事例

各工場では、照明器具、空調、生産にかかわる電気使用設備を省エネタイプのものに更新したり、それぞれの運用を工夫したりすることにより、エネルギー使用の合理化をはかっています。各省エネルギー施策に加えて、現場での気づきや改善アイデアの見える化など全工場を挙げて情報共有を行うことで、省エネ活動の推進を加速しています。

●エネルギー監視システムによる改善例  
コンプレッサの運用において、朝の立ち上げ時間を原因としたロスを見逃し、電源を入れる時間を調整することで年間約10%のエネルギー削減につながりました。



●日常管理ボードを活用した改善活動  
職場に掲示したボードで問題点や課題を共有。情報の見える化だけでなく、気づきや意見を記入してもらうことで、コミュニケーションの活発化を促し、改善活動の推進力となっています。



### ⇒物流過程でのCO<sub>2</sub>削減の取り組み

イトーキは貨物の委託輸送量が年間3,000万トンキロ以上の省エネ法上の特定荷主として、委託先と協力して物流プロセスにおける省エネルギーの実現に取り組んでいます。

#### ・モーダルシフトの推進

工場や物流センターの基幹輸送における製品の輸送手段を見直し、環境負荷の低減を図っています。トラック輸送から、よりCO<sub>2</sub>排出量の少ない海上コンテナおよびJRコンテナ輸送を大阪・東京間など13経路で採用しています。

#### ・コンテナ直送の推進

海外生産品の輸送では、海上コンテナで国内の倉庫に一旦運び、そこでさらに小分けにしてからそれぞれ得意先に納入していた工程を、コンテナ単位で海外から得意先に直送できるように工夫しています。輸送距離を短くし、年間エネルギー使用量の削減を図っています。

#### ・エコドライブ研修の奨励

輸配送の委託先に対して、各都道府県トラック協会の行うエコドライブ研修の受講を推奨しています。燃費の向上や燃料使用量の削減をねらいとしています。

### ⇒オフィスでの省エネルギーの推進

エコオフィス活動として各地区ごとに電力の削減目標を立て、照明や空調の適正化を行っています。2005年度から政府が進める地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25」の一環として、夏にはクールビズ、冬にはウォームビズを全社で実施しています。2006年からは、ライトアップ照明などを全国で一斉に消灯する「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」にも参加しています。2011年度は、6月22日～8月31日の71日間にオフィスビル・工場・寮など7施設で実施しました。

東京ショールーム、大阪ショールームでは、LED照明やタスク&アンビエント照明の採用、GHP空調の導入、オフィスの空間レイアウトや働き方も含めた省エネオフィスを展開しています。

### ⇒節電対策プロジェクトの設置

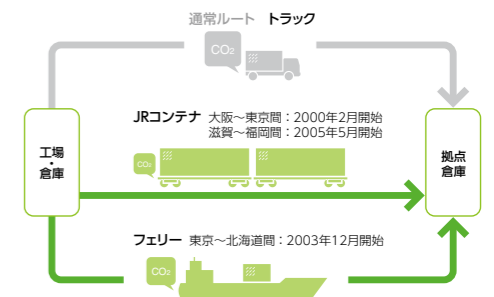
東日本大震災の影響にともなう政府からの使用電力の削減要請である2010年の使用最大電力からの15%以上削減を達成するために、節電対策プロジェクトチームを設置し、電力削減に努めました。

### ⇒国内排出量取引制度の試行スキームにエントリー

低炭素化社会の実現に向けて経済産業省が実施する国内排出量取引制度の試行スキームにエントリーしています。この制度は、各企業が自主的にCO<sub>2</sub>排出削減目標を設定した上で、自らの削減努力に加えて、排出枠・クレジット取引を活用し、削減目標の達成を目指す仕組みになっています。多くの企業の参加により、実効性のある仕組みの構築とそれによる国内CO<sub>2</sub>排出量の削減が期待されています。

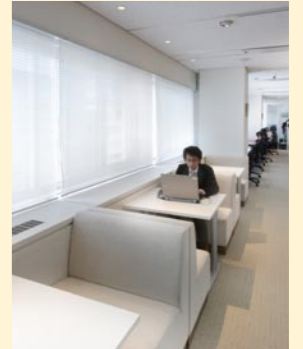
### ▼モーダルシフトによるCO<sub>2</sub>削減量

2011年度 **659**t-CO<sub>2</sub>の削減



### オフィスでの改善事例

窓側に共有スペースを設けるレイアウトとすることで、太陽光を有効に活用。昼間は窓側の照明を消灯し、省エネルギーにつなげています。



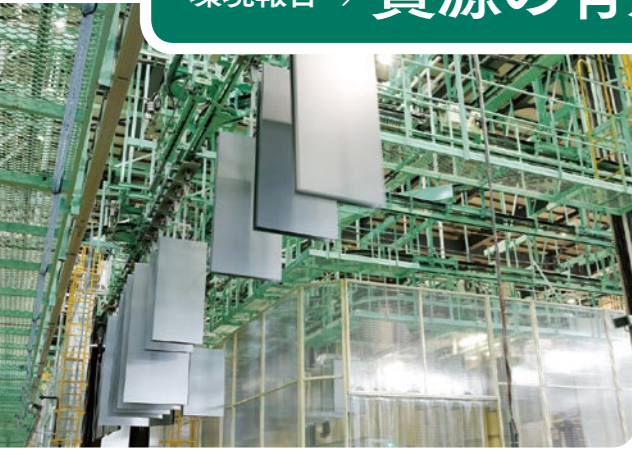
東京ショールームの様子

### ▼節電対策プロジェクト

実施期間	2011年7月4日（月）～9月28日（水）
対象地域	全事業所（各工場はオフィスエリアを対象）
削減目標	2010年の使用最大電力から15%以上削減
実施内容	<input type="checkbox"/> 照明エネルギーを常に30%～40%カットする <input type="checkbox"/> 空調の設定温度を28°Cにする <input type="checkbox"/> パソコン節電対策の実施 <input type="checkbox"/> イトーキが提案する各種エコアクションの徹底実施 <input type="checkbox"/> 早帰りの徹底

### ▼イトーキのエントリー情報

参加年度	2010年、2011年、2012年の3年
対象事業所	東京ショールーム、大阪ショールーム、滋賀事業所の3事業所
削減目標	直近3カ年（2006年～2008年度）のCO <sub>2</sub> 排出量の平均値を基準値とし、毎年1%減ずつ削減 ＝2010年2%減、2011年3%減、2012年4%減
削減実績	2010年37.2%減



## すべての資源の3Rに徹底して取り組んでいます。

詳細は下記をご覧ください  
 → <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/resource.html>

### すべての生産拠点でゼロエミッションを達成

各工場から排出される廃棄物の発生を削減を行うとともに、「ゴミ」ではなく大切な資源として再使用・再生利用を行い、埋立てゼロのゼロエミッションを推進しています。2002年度に、寝屋川工場（現在の関西工場 デスク・パネル）がゼロエミッションを達成後、2006年度までに滋賀工場（キャビネット、チェア）で達成しました。以降、電子機器部門、千葉工場でも達成し、現在は、すべての生産拠点でゼロエミッションを達成しています。

また、オフィスでも2006年に本社ビル（今福）でゼロエミッションを達成しました。

### 梱包材の再利用と省資源化

1回ごとの使い捨てではなく、繰り返し使用できる梱包材として通函（かよいばこ）を導入しています。また、製品へのノックダウン構造の採用や、製品ごとの適正な梱包形態を再検討し、可能な限りの簡素化や素材の統一を行っています。これにより、省資源化やお客様の分別廃棄の手間をなくすように努めています。

### 分別リサイクルを徹底

工場の廃棄物は、紙、金属、プラスチックといった素材ごとに分別され、定められた廃棄場所で管理されます。また、ものづくりの現場では、製造過程から出る廃材の有効利用もテーマとなります。たとえばチェアの工場では、生産工程で発生したプラスチックの廃材（スプール・ランナー）を粉砕し、樹脂材料に戻してリサイクルしています。

### 製造過程から出る廃材を有効利用

チェアの生産工程で発生した廃材をリサイクルしているほか、蛍光灯や乾電池なども業者と契約し、積極的なリサイクルに努めています。



関西工場  
（デスク）の  
分別回収場所

社員教育の  
様子

#### ▼通函による段ボール節約量

2011年度 **55,885** ケース (53t) の節約

#### ▼スプール・ランナーの有効利用

チェアの生産工程で発生したプラスチックの廃材（スプール・ランナー）を粉砕し、樹脂材料に戻してリサイクルしています。



- ① 樹脂成型後金型から取り出された樹脂成型品
- ② 金型の樹脂流入口から必要な形を得る成型品形状部分をつなぐ部分をスプール・ランナーといい、成型後は不要
- ③ このスプール・ランナーを集め粉砕し、樹脂材料として再利用
- ④ 樹脂成型材料を溶かし、金型内に溶けた樹脂を射出する

### 廃棄物、リサイクルガバナンスを強化

イトーキでは、「社内外の関係者を含めた体制構築」「社内の体制構築」「自社の取組み状況の情報発信・情報共有」などをポイントに、廃棄物・リサイクルガバナンスの強化に取り組んでいます。ゼロエミッションを実現・維持していくには、信頼できる業務委託先との協力が不可欠です。イトーキでは、自社独自の評価表を作成し、契約前に委託先の徹底評価を行うとともに定期的に委託先状況の確認を行っています。

社内体制において最も重視しているのが、社員の分別意識の向上です。リサイクルフローの理解を図る教育研修を積極的に行っています。研修では外国人従業員向けに通訳をつけ、全社員への浸透を目指しています。ほかにも、分別マークの工夫や現場長によるパトロールの実施など日々の分別活動を徹底するためにさまざまな活動を行っています。

### お客様の3Rへ

汚れやしみを専用機材と低環境負荷の洗浄材で、あらゆる家具や素材をリフレッシュするクリーニングサービス。チェアやソファの張地やクッションの取替えはもちろん、木部の補修、再塗装などを行うリペア。オフィスの移転時などに、お客様の不用になった家具を廃棄せず、リペア・クリーニング、中古販売、マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルによって、廃棄物ゼロを実現するオフィスエコロジーマネジメントシステム。イトーキはさまざまなサービスを通じて、自社製品を長く、大切に使用していただけるよう努めています。

### 物流センターでの3Rへの取組み

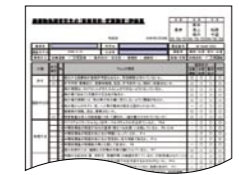
物流センターでは、梱包材や廃パレット等の資材のリサイクルに加え、お客様から下取りした家具を素材別に分別・解体し、リサイクルをする取組みを行っています。より多くリサイクルできる処理委託先の選定などを進め、2011年度の産業廃棄物リサイクル率アップを実現しました。

### 水資源の節約

水の循環利用や節水機器の導入を進めることで、工業用水の使用量を削減しています。デスクの塗装ラインでは、従来、塗装ブース内のウォーターカーテンに使用した水は、塗料を多く含んでいるため、毎日新しい水と交換していました。そこで薬品の投与により塗料を分離・沈澱させ、上部の水だけを循環、再利用するようになりました。

また工場では、水を使わない粉体塗装を導入することで、水使用量の削減を実現しています。そのほか、排水処理での希釈水の改善、トイレや手洗い場の水量の調整など地道な節水活動を行っています。

#### ▼独自に作成した委託先のチェックシート



#### ▼現場長によるパトロール



#### ▼分別徹底のために13種類のリサイクルマークを採用



クリーニングサービス

#### ▼2011年度に全国の物流センターで回収した製品・梱包材等のリサイクル率

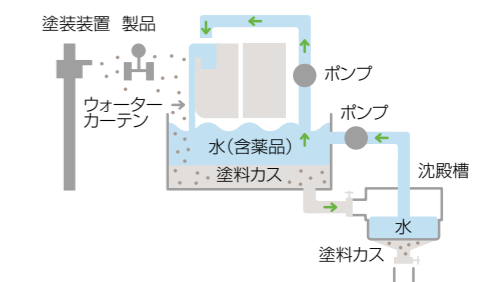
2010年度 97.7% → 2011年度 **98.3%** (t)

物流センターで回収した製品・梱包材等 総量	1911
リサイクル量	1879
金属類	994
プラスチック	850
木くず	35
焼却・埋立処分量	32

※プラスチックには製品の梱包材を含みます。木くずには廃パレットなどを含みます。

→ 廃棄物等総排出量とリサイクル率の詳細データはP32をご覧ください。

#### ▼ウォーターカーテンに使用した水の循環利用



→ 水使用量の詳細データはP32をご覧ください。



## 安全と健康を重視した ものづくりを進めています。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/toxics.html>



## 森林の保全・維持に貢献する 事業を目指します。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/variety.html>

### ⇒有機溶剤の削減への取組み

イトーキでは、製品の塗装工程における有機溶剤の削減を進めています。1988年にデスクの塗装で有機溶剤系の塗料から環境負荷の少ない水溶性塗料に切り替えたことに始まり、2001年からは、メタリック塗料についても水溶性塗料に切り替えました。

また、有害物質を放散しない「粉体塗装設備」を積極的に取り入れています。2004年からキャビネットの塗装ラインの一部を粉体塗装に変更。2007年にはそのキャビネットの全塗装ラインを粉体塗装に切り替えました。2008年には新しく竣工した千葉工場の建材塗装ラインを粉体塗装と水性塗装とし、2009年1月からは、チェアの塗装ラインも粉体塗装に変更しています。

取扱量および大気への排出量の減少に今後も努めてまいります。

→PRTR報告対象物質の取扱量についてはP33をご覧ください。

### ⇒製品使用化学物質のデータベースを管理

製品の安全性を確保するため、製品に使用されている化学物質については、VOC（揮発性有機化合物）等の対象物質の調査と、結果資料のデータベース化などを継続して行っています。また、洗浄シンナーのノントルエン化や、環境負荷の少ない塗装への切替えなど、VOC等の対象物質の取扱量の削減を行っています。

### ⇒ケミレス認証制度設計に参加

イトーキは、2006年から、千葉大学環境健康フィールド化学センター（千葉県柏市）内で進められているケミレスタウン・プロジェクトに唯一家具メーカーとして参加しています（2012年3月末で一旦終了）。医学の専門家と企業が協力して、シックハウス症候群の原因物質の研究や人体に対する影響の解明に取り組んできました。多くの実証実験や計測の結果、健康な空間を実現する基準をトータルVOC（TVOC値）で示すことができる段階に到達。きびしい基準値（250 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）をクリアする空間をケミレス認証空間と名づけ、具体的なモデルの提案や認証制度づくりを進めています。イトーキでは、ケミレス認証空間のモデルをオフィス、ドミトリー（寮）、学校を想定したパッケージとして発表しています。

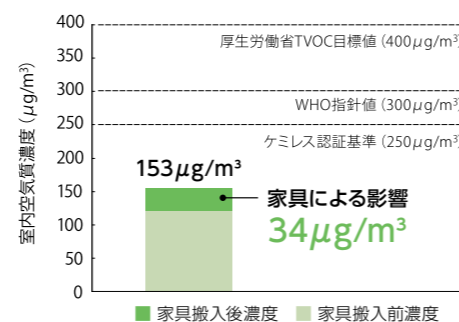


粉体塗装

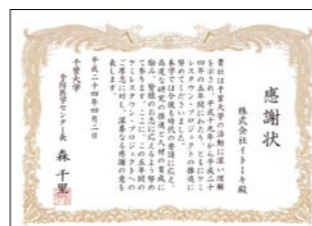


ケミレス認証空間オフィスパッケージ

#### ▼ケミレス認証空間のTVOC濃度



#### ▼ケミレスタウン・プロジェクトへの感謝状



### ⇒FSC®・COC認証を取得

イトーキは2011年10月にFSC・COC認証を取得いたしました。

FSC (Forest Stewardship Council® 森林管理協議会) とは、国際的な森林認証制度を行う第三者機関のひとつで、森林環境を適切に保全し、地域の社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を推進することを目的としています。COC認証とは、Chain-of-Custodyの略で、加工・流通過程の管理の認証です。これによりFSC認証の完成品を購入し、販売することが可能となりました。FSC認証品の購入は、世界の森林保全への貢献につながります。

### ⇒「合法性・持続可能性にかかわる事業者認定」を取得

2006年のグリーン購入法改訂に伴うJOIFA（日本オフィス家具協会）の「合法性・持続可能性にかかわる事業者認定」を取得しました。これに基づいて、合法性、持続可能性が証明された木材、木材製品の使用・販売を推進するため、木材の流通・加工ルートの確認や社内体制の見直しなど、グリーン購入法適合商品のスパイラルアップを図っています。

### ⇒地域材の活用を推進

森林は、CO<sub>2</sub>固定による地球温暖化防止をはじめ、「貴重な動植物の生息生育の場」という生物多様性の保全という面でも、大切な役割を果たします。イトーキは2010年より、日本の豊かな森から生まれる地域材（間伐材）の活用を通じて、森と街を共に「いきいき」とさせるソリューション「Econifa（エコニファ）」を展開しています。

### ⇒間伐材利用を推進

「間伐材マーク」は、間伐や間伐材利用の重要性の啓発および、間伐材への関心を喚起する目的で、全国森林組合連合会が認定を行っているマークです。イトーキは、各地域の間伐材の利用促進を積極的に行っており、当マークの認定を取得しています。

### ⇒林野庁の「木づかい運動」に参加

イトーキは、国産材利用の普及啓発を目的とする林野庁の「木づかい運動」に参加しています。平成23年度にはEconifaによる国産材利用の推進を評価いただき、農林水産大臣感謝状を受けました。

#### ▼FSC森林認証マーク



#### ▼JOIFA合法性木材事業者認定書



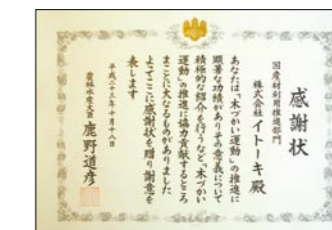
#### ▼間伐材マーク



#### ▼木づかいサイクルマーク



#### ▼「平成23年度木づかい運動」で受賞した感謝状







# 設計・生産から販売まですべての事業活動に関わる環境への影響について報告します。

詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/action.html>

## 環境負荷の全体像

### INPUT

総エネルギー投入量 ..... 375,154 GJ

重油・軽油・灯油・ガソリン ..... 872 kl  
LPG ..... 868 t  
購入電力 ..... 20,763 kWh  
都市ガス ..... 1,061 千m<sup>3</sup>

水資源投入量 ..... 107 千m<sup>3</sup>

上水 ..... 65 千m<sup>3</sup>  
工業用水 ..... 12 千m<sup>3</sup>  
地下水 ..... 30 千m<sup>3</sup>

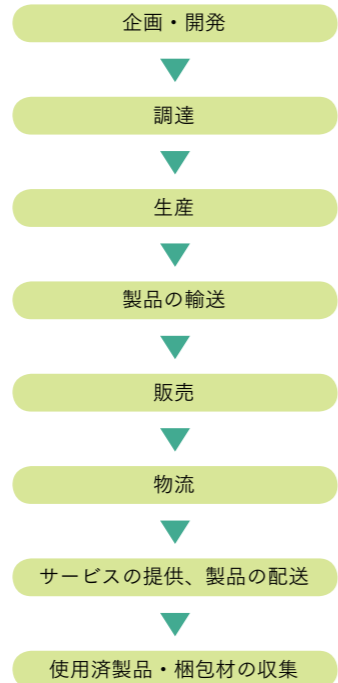
総物質投入量 ..... 33,278 t

金属類 ..... 16,473 t  
プラスチック類 ..... 1,381 t  
木質類 ..... 899 t  
梱包材料 ..... 1,433 t  
紙類 ..... 453 t  
石こうボード ..... 3,908 t  
コピー用紙、カタログ類 ..... 116 t  
その他 ..... 8,615 t

化学物質取扱量 ..... 43 t

メチルビス(4-フェニル)フェニル ..... 15 t  
キシレン ..... 12 t  
エチルベンゼン ..... 7 t  
トルエン ..... 5 t  
亜鉛の水溶性化合物(亜鉛として) ..... 2 t  
1,2,4-トリメチルベンゼン ..... 2 t

### イトーキの事業活動



### OUTPUT

大気への排出量

CO<sub>2</sub> ..... 21,777 t-CO<sub>2</sub>  
NO<sub>x</sub> ..... 6,070 kg  
SO<sub>x</sub> ..... 1 kg

水域への排出量 ..... 107 千m<sup>3</sup>

公共用水への排出量 ..... 55 千m<sup>3</sup>  
下水道への排出量 ..... 52 千m<sup>3</sup>

廃棄物等総排出量 ..... 7,171 t

リサイクル量 ..... 7,096 t  
焼却・埋立処分量 ..... 75 t

オフィス関連製品販売量 ..... 31,295 t

■ Input, Outputの集計範囲(2011年度)/株式会社イトーキ: 関西工場(デスクパネル、金庫、スチール棚、研究施設) 滋賀工場(キャビネット、チェア、電子機器) 千葉工場(パーティション) 物流センター エコオフィスサイト

■ CO<sub>2</sub>算出方法/CO<sub>2</sub>排出係数については、環境省「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」(2006年4月公表)を参考にしました。電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、一律0.555t-CO<sub>2</sub>/kWhで算出しています。製品の輸送に関するCO<sub>2</sub>排出量は、改正省エネ法(特定荷主)に準じた算出方法を採用しています。

■ 測定対象/総エネルギー投入量: 重油、軽油、灯油、ガソリン、LPG、購入電力、都市ガスの使用量/水資源投入量: 上水、工業用水、地下水の使用量/総物質投入量: 原材料、資材として投入する資源の量、コピー用紙、カタログ類の量/化学物質取扱量: 年間1t以上取り扱うPRTR報告対象の化学物質の量/CO<sub>2</sub>排出量: 燃料、電力などエネルギー起源の二酸化炭素の排出量/NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>: ボイラーなどの設備から排出される量、大気汚染防止法施行規則に規定する算出方法の推定値/廃棄物等総排出量: 有価物、一般廃棄物、産業廃棄物の量/リサイクル量: マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの量/焼却・埋立処分量: 単焼却、埋立処分量

## 2011年度 環境会計報告

分類	主な取組み	環境保全コスト(単位:千円)	
		投資額	費用額
事業エリア内コスト		63,090	265,223
公害防止コスト	排ガス測定、排水処理、浄化槽管理、粉体塗装などVOCの低減等のための設備保全、PCB処分	40,641	112,987
地球環境保全コスト	自然エネルギーの活用、工場におけるエネルギー効率改善、コージェネシステムの維持、空調の改修、カーボン・オフセットプロダクツ販売諸経費	22,056	94,664
資源循環コスト	一般廃棄物と産業廃棄物の減量化、リサイクル、生産効率の向上	392	57,571
上・下流コスト	容器包装の低環境負荷化	0	1
管理活動コスト	環境ISOの維持管理活動、環境ラベルの取得、展示会出展などによる情報開示、環境パフォーマンス等の監視、事業所内の緑化	14,432	259,910
研究開発活動コスト	環境負荷の低減に貢献する製品の設計・開発、新素材の研究・開発	606	18,670
社会活動コスト	ユニバーサルデザイン、環境関連団体への参画、社会貢献活動の実施	0	260
環境損傷対応コスト	売却地における土壌調査	0	0
合計		78,129	544,066

項目	環境保全効果(前年比)		
	2010年度実績	2011年度実績	前年比
PRTR報告対象物質取扱量	28t	43t	15t
NO <sub>x</sub> 排出量	3,129kg	6,070kg	2,941kg
SO <sub>x</sub> 排出量	1kg	1kg	0kg
CO <sub>2</sub> 排出量	21,901t-CO <sub>2</sub>	21,777t-CO <sub>2</sub>	-124t-CO <sub>2</sub>
廃棄物総排出量	7,670t	7,171t	-499t
廃棄物焼却・埋立処分量	83t	75t	-8t
産業廃棄物リサイクル率	99%	99%	±0ポイント
事業系一般廃棄物リサイクル率	98%	98%	±0ポイント
エコマーク登録商品数	20シリーズ	16シリーズ	-4シリーズ

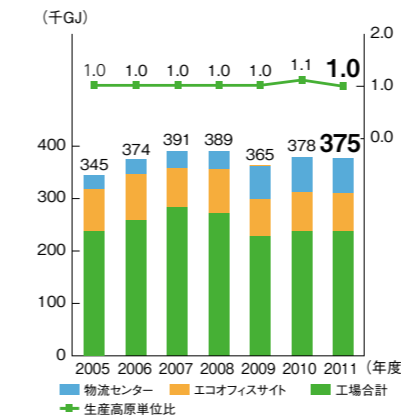
集計範囲: 株式会社イトーキ  
集計期間: 2011年1月1日~12月31日  
参考にしたガイドライン: 環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」  
環境保全コストについては、環境保全コストには、環境に寄与する割合を加味する按分基準を設けています。費用額には減価償却費を含みます。

# それぞれの事業場が環境負荷の低減に挑戦し続けています。

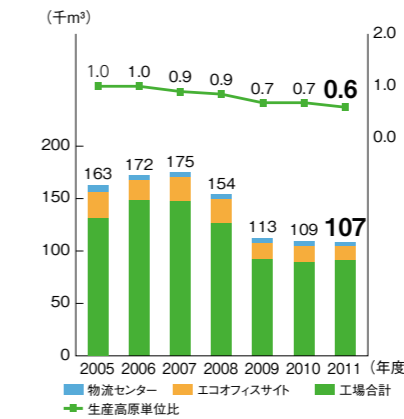
詳細は下記をご覧ください  
→ <http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/performance.html>

## INPUT 経年変化

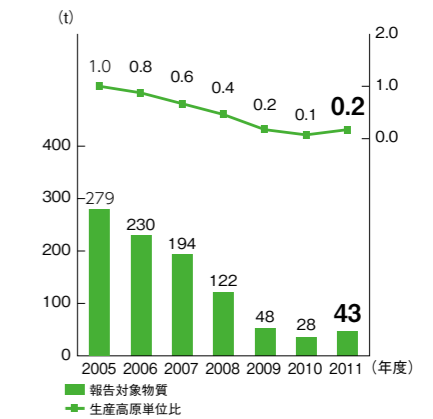
### エネルギー使用量と生産高原単位比の推移



### 水使用量と生産高原単位比の推移

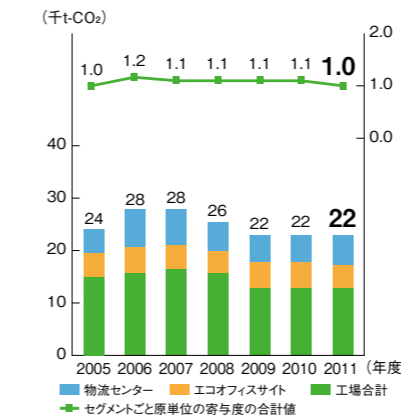


### PRTR報告対象物質取扱量と生産高原単位比の推移

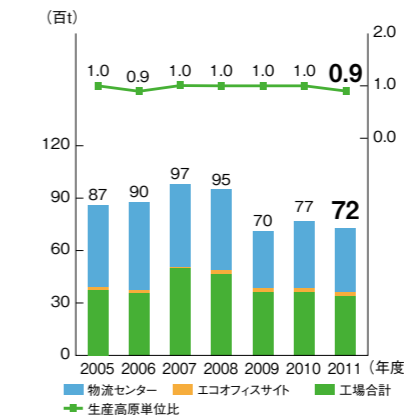


## OUTPUT 経年変化

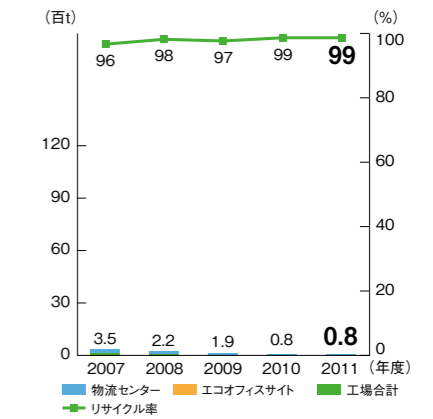
### CO<sub>2</sub>排出量とセグメントごと原単位の寄与度の合計値



### 廃棄物等総排出量と生産高原単位比の推移



### 焼却・埋立処分量とリサイクル率の推移



## 経年変化グラフ

- 工場合計について  
エコオフィスと物流センターを除いた工場の合算値です。
- 生産高原単位比について  
工場合計実績/生産高で算出しています。また、2005年6月1日に製造部門と販売部門が企業統合したため、2005年を基準年にしています。
- 寄与度の合計値について  
寄与度の合計値は、エネルギーの使用の合理化に関する法律における「エネルギー使用と密接な関係を持つ値(原単位の分母)を事業者全体でひとつに設定できない場合」に準拠して算出しています。
- PRTR報告対象物質取扱量について  
グラフ内の数値は、年間1t以上取り扱うPRTR報告対象物質の合算値です。
- 廃棄物等総排出量について  
合算値は有価物も含まれます。物流センターには、お客様から引き取った使用済み家具を含みます。

## 会社概要

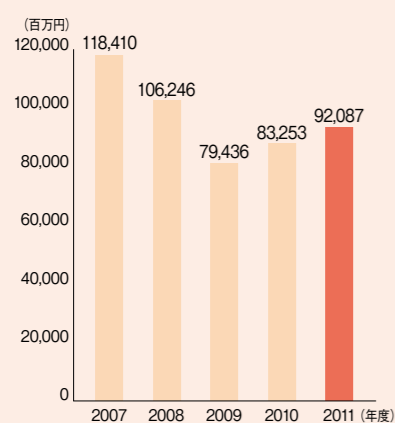
社名	株式会社イトーキ	資本金	5,277百万円
英文社名	ITOKI CORPORATION	代表	代表取締役会長 山田 匡通 代表取締役社長 松井 正
本社所在地	〒536-0002 大阪市城東区今福東1-4-12 Tel.06-6935-2200/Fax.06-6935-2268	事業所数	事業所35カ所、配送センター8カ所、工場7カ所
創業	1890 (明治23) 年12月1日	従業員数	1,964名 (単体 2011年12月31日現在)
設立	1950 (昭和25) 年4月20日		

☞ 会社概要 <http://www.itoki.jp/company/>

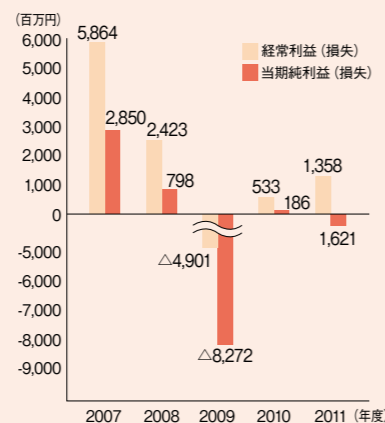
## 財務データ

☞ 業績・財務内容 <http://www.itoki.jp/company/ir/>

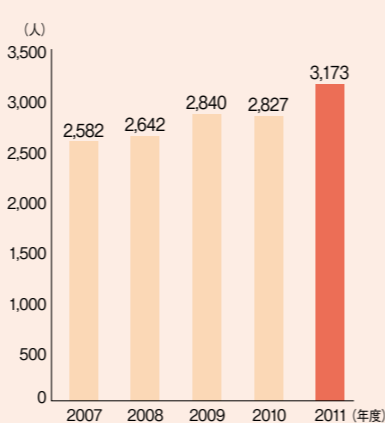
▼売上高推移(連結)



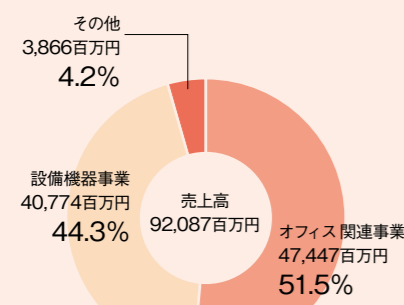
▼利益推移(連結)



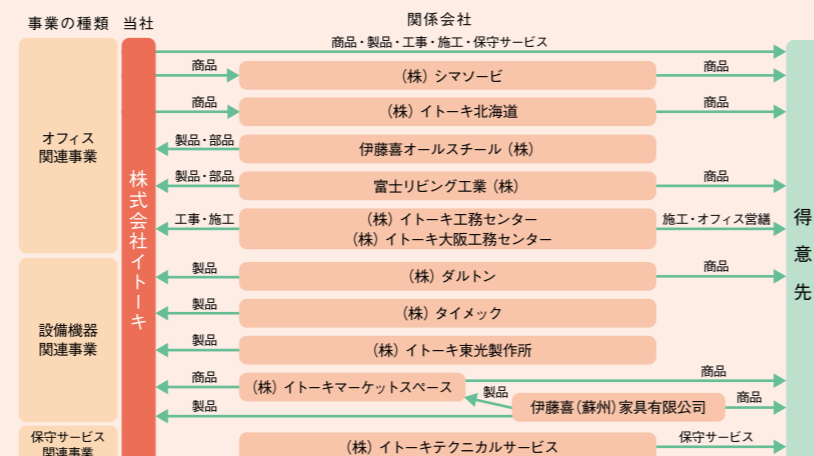
▼従業員数推移(連結)



▼売上高構成比(財務セグメント別)



▼関係会社の状況(連結子会社)



## 事業内容

☞ 事業紹介 <http://www.itoki.jp/company/>

● **オフィス関連事業** これからのオフィスや公共施設(医療・高齢者施設、学校、図書館、美術館、博物館、劇場、ホール)に求められる感性や創造性を高めるクリエイティブな空間、人・物・情報を保護するセキュリティ&セーフティな環境を、さまざまな製品、ソリューションにより実現します。

● **設備機器事業** 工場、物流施設、研究施設、原子力施設、金庫室、商業施設などの専門施設を、先進技術を駆使した効果的なシステム機

器・設備でサポートすることに加えて、オフィスビルや公共施設などに、フリーアクセスフロア、移動・可動間仕切などの施工性・機能性・デザイン性を兼ね備えた内装建材設備を提供しています。

● **その他** 学習デスク・チェア、書斎・SOHO家具、福祉・介護用品などのパーソナル家具の他、什器の修理やメンテナンス等の保守サービスを提供しています。

## 第三者意見

### 社会・環境への貢献活動のさらなる進展に期待

#### 【評価できること】

- 「新Ud & Eco style」というイトーキのコーポレートメッセージが、明確に打ち出されたわかりやすい報告書だと思います。全体を通じて、「新Ud & Eco style」を単に自社製品で具現化することにとどまらず、空間としてトータルに実現するという視点が貫かれており、イトーキが、お客様のもとに製品が届いた後にそれがどのように使われるかも含めて、自社の社会や環境への配慮のための活動の一環として捉えていることが伝わる報告書となっている点に、大きな特徴があります。
- モノづくりについても、Econifaやカーボンオフセット製品の開発、徹底した3Rへの取組みなどを通じて、イトーキの誠実な姿勢が伝わります。
- 特集2や3で取り上げているように、イトーキの製品が主として使われるのは会社のオフィスですが、ここでは日々、人々が集まって仕事をしており、社員個人やチームの活発で創造的な行動が求められる一方、時代を反映して、環境への負荷を小さくすることも同時に求められています。一見、相反するこの2つの要素を同時に達成する上で、イトーキが提供する環境ソリューション製品・サービスやワークステーションが大きな役割を果たすわけですが、そこにイトーキの社会的責任に対する意識の高さを読み取ることができます。

#### 【期待したいこと】

- 本報告書の環境関連データは充実しています。今後は、製品のライフサイクル全体(原材料調達-生産-流通-廃棄・リサイクル)にわたる温室効果ガス排出量を明示していただければ、環境データの充実度はさら

## 第三者意見を受けて

この度の環境・社会報告書発行にあたり、貴重なご意見をお寄せくださった高岡先生に、厚く御礼申し上げます。当社の「新Ud & Eco style」を軸とした企業活動や、モノづくりへの取組み姿勢を評価してくださったことを誠に光栄に存じます。当社は、「人も生き生き、地球も生き生き」を合言葉に、日常の活動を通じた環境や社会への貢献を大事にしております。今後も、不断の努力で、

地球市民としての社会的責任を果たす企業であり続けたいと思います。

今回ご指摘いただいた、サプライチェーンや社会性報告の充実等についても鋭意検討し、報告の高度化を進めてまいります。

執行役員 管理本部長 森谷 仁昭

立教大学 経営学部 教授/経済学博士  
高岡 美佳

専門は消費者行動の変化と流通システム、サステナブル社会の形成とコミュニケーション。経済産業省、環境省、国土交通省などの委員を務める。



に高まるでしょう。また、ISO26000を見据え、サプライチェーン全体を視野に入れた社会性データの充実にも期待します。イトーキには、中長期的・広域的な視野から社会・環境配慮活動のあり方を見つめ直し、これからも、業界をリードする活動を継続していただくことを望みます。

● イトーキは、従業員が生き生きと働く環境をつくるために、人材育成のための教育・評価制度や多様な働き方に向けた各種制度を設置・運用しており、この点について高く評価することができます。ただし、本報告書には、障がい者雇用数や産休/育休制度の取得者数が明記されているにもかかわらず、介護休業制度の取得者数や管理職の男女構成比などの数値が見当たりません。今後は、これらの社会性にかかわる項目について、環境にかかわる項目と同様の水準にまで記述を充実させ、情報公開を進めるべきでしょう。中長期的には、目標値や達成プロセスを明確化することも期待します。

● お客様に製品やソリューションを提供することで、どのようにお客様側のCO<sub>2</sub>排出量を削減するかという取組みは、イトーキが今後、国内においてはモノを提供するだけでなく、オフィス全般のマネジメントやソリューションを提案するというビジネスに舵を切る上で、重要な意味を持ちます。本報告書内では、この点を意識して、イトーキが開発した省エネ快適照明システムを導入したオフィスにおいて、電力使用量を60%以上削減した事例が取り上げられています。今後は、環境パフォーマンスデータとして、自社内でのCO<sub>2</sub>削減実績だけでなく、「お客様先でのCO<sub>2</sub>削減実績」を新たに掲載されてはいかがでしょうか。